

# 学習指導案集

指導案を  
読んで  
なっとくん



研究協力員が第2回の授業の際に作成した学習指導案を紹介します。基本的に研究協力員の所属校の様式になっています。用語は「応援ブック」(授業づくり編P58～)を基準に統一しました。授業改善の取組が詳細に分かるように、対象とした児童(生徒)の個別の指導計画の短期目標と目標達成のための手立て、板書計画、座席図、教材・教具の工夫等を加えた細案としました。様式のスタンダードとして示すものではありません。全ての授業でこのような細案を作成していくことは難しいと考えますので、学習指導案の作成の参考にする際には、各学校の様式に合わせて、部分的に取り入れていただきたいと考えます。

自立活動の内容(区分・項目)との関連は【1-(1)】のように示しました。自立活動の内容につきましては、P60の資料1を参照ください。インクルーシブ教育システム構築に伴い、合理的配慮に関連する内容について、観点を「合理①-1-1」のように示しました。インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮の観点等につきましては、国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システムデータベースに示されています。P60～61の資料2, 3を参照ください。

## 学習指導案の教科・領域, 単元・題材名, 改善の視点

	校種	担当学級等	教科・領域	単元・題材名	改善の視点	ページ
①	小学校	知的障害特別支援学級	生活単元学習	単元名 お世話になった人におくりものをしよう	場の工夫 評価の工夫	62 ～66
②	小学校	言語障害特別支援学級	自立活動	題材名 「キ」をつかったことばあそびをしよう	実態把握・目標設定の工夫 教材・教具の工夫	67 ～71
③	小学校	言語障害特別支援学級	算数	単元名 式と計算	実態把握・目標設定の工夫 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	72 ～76
④	小学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	国語	単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう	実態把握・目標設定の工夫 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	77 ～80
⑤	中学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	数学	単元名 1次関数	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画 特性に応じた支援	81 ～86
⑥	中学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	美術	題材名 あさがおのタペストリを作ろう	場の工夫 発問・応答・賞賛などの 言葉かけの工夫	87 ～90
⑦	特別支援学校	聾学校・高等部	国語	単元名 文化を見つめる	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画 特性に応じた支援	91 ～94
⑧	特別支援学校	肢体不自由・高等部	自立活動	題材名 たおして遊ぼう	教材・教具の工夫 ティーム・ティーチング	95 ～99

## 資料 1 自立活動の内容

### 1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
- (4) 健康状態の維持・改善に関する事。

### 2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事。
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。

### 3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
- (4) 集団への参加の基礎に関する事。

### 4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事。
- (2) 感覚や認知の特性への対応に関する事。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。

### 5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
- (4) 身体の移動能力に関する事。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。

### 6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
- (2) 言語の受容と表出に関する事。
- (3) 言語の形成と活用に関する事。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（文部科学省）

## 資料 2 インクルーシブ教育システム、合理的配慮について

「インクルーシブ教育システム」とは

障害者の権利に関する条約第 24 条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system、署名時仮訳：包容する教育制度)とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」(署名時仮訳：教育制度一般)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニ一

ズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

「合理的配慮」とは

「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」とされている。なお、「負担」については、「変更及び調整」を行う主体に課される負担を指すとされている。

「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、各学校の設置者及び学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の」負担について、個別に判断することとなる。各学校の設置者及び学校は、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶというインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「合理的配慮」の提供に努める必要がある。その際、現在必要とされている「合理的配慮」は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて、共通理解を図る必要がある。

インクルーシブ教育システムデータベース（国立特別支援教育総合研究所）

### 資料3 合理的配慮の観点

① 教育内容・方法	
合理①-1-1	学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
合理①-1-2	学習内容の変更・調整
合理①-2-1	情報・コミュニケーション及び教材の配慮
合理①-2-2	学習機会や体験の確保
合理①-2-3	心理面・健康面の配慮
② 支援体制	
合理②-1	専門性のある指導体制の整備
合理②-2	幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
合理②-3	災害時等の支援体制の整備
③ 施設・設備	
合理③-1	校内環境のバリアフリー化
合理③-2	発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
合理③-3	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

インクルーシブ教育システムデータベース（国立特別支援教育総合研究所）

## 学習指導案 ①

〈対象とした児童〉 6年 性別 女 A
〈個別の指導計画から〉
○短期目標（2学期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活において協力してくれる人や手助けしてくれる人がいるから「私は、・・ができた」に気付くことができる。</li> <li>・ お世話になっている人に、感謝の気持ちを込めたメッセージと、プレゼントを作ることができる。 <span style="float: right;">【6-（2）】</span></li> <li>・ お世話になっている人に感謝の気持ちを言葉で伝え、プレゼントを手渡しすることができる。 <span style="float: right;">【3-（1）】</span></li> </ul>
○手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業開始前にお世話になっている人とのエピソードから、なぜ感謝しているのかを言葉で発することでその人に対して「ありがとう」という気持ちを高める。</li> <li>・ 渡す相手の写真を活動の手順表に示し、常に意識して創作活動に取り組めるようにする。 <span style="float: right;">合理①-2-1</span></li> <li>・ 感謝の気持ちにつながるキーワードの確認をする。 「いつも・・で」「・・の時」「・・してくれた」「うれしかった」「たのしかった」「ありがとう」</li> <li>・ 作業ごとに1回練習を行い、注意点や道具の扱い方について確認を行ってから創作活動に入る。 <span style="float: right;">合理①-2-1</span></li> </ul>

### 小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習指導案

#### 1 単元名 お世話になった人におくりものをしよう

#### 2 単元について

##### (1) 対象児童の単元における実態

本児は、やや吃音があるものの明るく元気に学校生活を送っている。友達や教員との会話に関しても特に嫌がる様子もなく、休み時間などのときに自分から気軽に話しかけることができる。活動面に関しては、活動内容や順番等が分かり見通しがもてたときは主体的に取り組むことができる。しかし、目的やねらいをもって相手に話しかけたり、評価を意識して「上手くやらないと」という気持ちになると、かしこまってしまったり、緊張してしまったりして、人との関わりや活動に主体的に取り組むことが難しくなってしまう。教員間では、本人の実態について共通理解を図り、本人が臆してしまったときには、本人がやりやすいようにサポートしている。徐々にではあるが、教員のサポートが入ることで「できる」「できた」という自信が見られるようになってきた。しかし、いろいろな人にお世話になりながら日々の生活を送っているという意識はなく、相手に感謝するという気持ちあまり育っていない。それは、本人が相手から感謝されるという経験が少なく、「～のおかげで」「～でありがとう」という相手から感謝される喜びを感じる経験が不足しているからと考えられる。

##### (2) 単元観

本単元「お世話になった人におくりものをしよう」は、日頃から何らかの関わりのある人を意識させることで、感謝する気持ちの育成を目指すものである。1学期に行った「牛乳パックでティッシュケースを作ろう」の創作活動では、安全な道具の扱い方の学習を行い、安全を意識して丁寧に作品を作り上げることを目標に行った。本単元では、その経験を生かし、渡す相手を意識しながら、プレゼントを作り、直接手渡すことで、相手から感謝される喜びを味わうことができる。また、自分一人の力で作り上げたものをプレゼントする活動をとおして、努力から生まれる自信へとつなぎ、主体的に取り組める学習活動へと発展させたい。

(3) 指導にあたって

受け取った人に喜んでもらうためにも、もらう側の立場になって丁寧に作ることを意識を高めたい。そのためには、渡す相手の写真を掲示したり、今作っているのは「何のためなのか」「もらった相手は、どう思うか」を活動中に問いかけたりすることで、常に渡す相手の意識付けを図っていく。また、自分一人の力で作り上げるためには、活動の見通しを分かりやすく提示し、自力で作るための補助具が必要である。1学期の経験を生かすためにも、素材は同じ物を使い、基本的な創作工程は同じにする。型の取り方や切断の仕方等に関しては、やや難易度を上げた活動にすることで集中させた活動を目指したい。また、工程ごとに振り返りを行い、頑張りを賞賛することで、達成感や満足感を得るようにし、次の工程に取り組む意欲を高め、一人で作り上げる意識の持続につながるようにする。

3 児童の実態と個別目標

<p>〈单元における実態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活においてある程度親しくなると、自分から進んで相手に声をかけることができる。</li> <li>○日頃、サポートしてくれている人に対して、あまり感謝の気持ちがみられず、表面的な関わりとなってしまう。</li> <li>○手先が不器用で、細かい作業を苦手としており、活動を避ける傾向がある。</li> <li>○視覚的な手がかりによって、注意を向けたり、理解が促進されたりすることが多い。</li> <li>○線を引く、線に沿って切るといったときに、曲がってしまうことが多い。</li> </ul>
<p>〈单元における目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いつも・・・で」「・・・の時」「・・・してくれた」「うれしかった」「たのしかった」「ありがとう」のキーワードを使い、その人との関わりについて説明することができる。【3-(1)】</li> <li>○制作手順を一人で確認しながら、作り方の順番に従って、最後まで一人で集中してペン立てを完成させることができる。【5-(5)】</li> <li>○プレゼントする相手を意識して、感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。【6-(2)】</li> </ul>

4 指導計画と評価 (10 時間取り扱い)

- 第1次 オリエンテーション・・・・・・・・・・ 2時間
- 第2次 ペン立てを作ろう・・・・・・・・・・ 7時間

時	主な学習内容・活動	評価
3～9 (本時は5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペン立てを作る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・型紙を使って型をとる。</li> <li>・カッターを使って型を切る。</li> <li>・切ったものを貼り合わせる。</li> <li>・プレゼントに添えるカードにお礼のメッセージを書く。</li> <li>・今日の活動を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作り方の順番に従って、ペン立てを作ることができる。</li> <li>○型紙にそって牛乳パックや色画用紙に線を引いて型をとることができる。【5-(5)】</li> <li>○線を意識して、線の上をはさみやカッターを使って切ることができる。【5-(5)】</li> <li>○プレゼントを贈る相手を意識して、カードに感謝の気持ちが伝わるキーワード入れて、メッセージを書くことができる。 【6-(2)】</li> <li>○ペン立てを作ったことやお世話になった人にプレゼントしたときの気持ちを、言葉や文に表すことができる。</li> </ul>

- 第3次 活動を振り返ろう・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導


(1) 児童の実態と個別目標





実 態		目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や写真などで内容を提示すれば、集中して活動を進めることができる。</li> <li>・カッターを使用して紙を切る体験をしているものの、定規を固定しながらまっすぐに切るのはまだ難しく、時折、定規がずれてしまい、切り方が斜めになってしまうことがある。</li> <li>・カードにメッセージを書くことはできるが、文章が単調になりがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作り方の順番に従って、一人でペン立てを作ることができる。</li> <li>・定規（線）に沿ってカッターで紙を切ることができる。【5-（5）】</li> <li>・感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。</li> </ul>

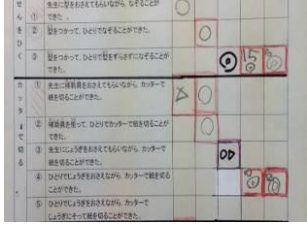
(2) 準備物等

教材・教具	使用する目的及び使用者	使用場面
活動の流れが書かれている掲示物 プレゼントする相手の写真	活動の流れを確認する。 プレゼントを渡す相手分かる。 (教員・児童)	開始時
牛乳パック、色画用紙、型紙、カッター、 定規、カッターマット、油性ペンなどの筆記用具、 カッター練習用の補助具 練習用紙(カッターの使い方の練習) 飾り用イラスト紙、テープのり、輪ゴム 木工用ボンド、手順表	ペン立て作り(児童)	ペン立て作りの 活動中
パーツケース	切ったパーツを入れておく。(児童)	切る活動中
振り返りカード	自己評価(児童)	活動が切り替わる時
チェック表	児童の評価(教員)	常時

(3) 展開

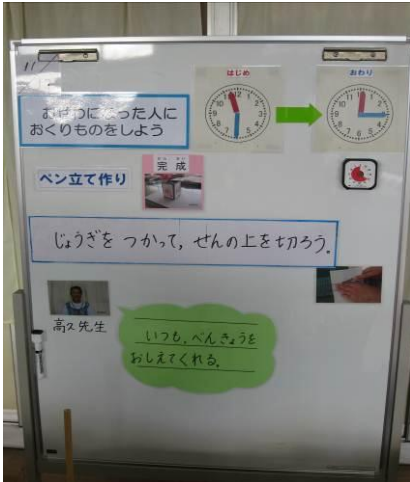
時間	学習の内容及び活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
5	<p>1 活動内容やプレゼントを渡す相手を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼントを渡す相手とのエピソードを発表する。</li> <li>・本時のめあての確認をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じょうぎをつかって、せんの上を切ろう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れが見て分かるように、全体の活動内容を文字にして掲示する。合理①-2-2</li> <li>・誰にペン立てをプレゼントするのかを意識できるように、プレゼントを渡す相手の写真を掲示する。</li> <li>・エピソードの発表の際、なかなか言葉が出ないときには、発問して伝えたいことを引き出す。</li> <li>・「めあてカード」を読ませた後、活動の注意点について発問し、理解の確認を行う。</li> </ul>

<p>30</p>	<p>2 ペン立てを作る。</p> <p>(1)型をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数字の1から順に型紙を置き、サインペンで線を引く。</li> <li>型に沿って線が引けたか、型紙と比較して確認する。</li> </ul> <p>(2)カッターで切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線上を切る練習をする。</li> <li>数字の順番ごとに、牛乳パックや色紙などをカッターで切る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>カッターを使って、線上を切れたか確認する。</li> </ul>  <p>(3)紙を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本体の4角，上部，下部に色紙を貼る。</li> <li>面の白い部分に好きなイラスト紙を貼って装飾する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を添付した作業工程表を作成し，自主的に作業が行えるようにする。合理①-2-2</li> <li>型紙にあらかじめ数字を書きしておくことで，順番よく作業を進めることができるようにする。合理①-2-1</li> <li>まっすぐな線が引けるよう型紙を作成し，提示する。合理①-2-1</li> <li>牛乳パックを切る前に事前に補助具を活用して，カッターで切る練習を行い，切断時に線を意識して切ることができるようにする。合理①-2-2</li> <li>カッターの刃のあて方と線に注目できるよう言葉かけをする。合理①-2-1</li> <li>定規がうまく固定できるように，手を添える。</li> <li>順番ごとにパーツを入れておくケースを準備することで切ったパーツがバラバラにならないようにする。合理①-2-2</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼントを渡す相手の写真を見せながら，絵柄のサンプル集の中から選べるようにする。</li> <li>テープのりやボンドをつける際に，曲がったり，ズレたりしないように補助線を引いておく。合理①-2-1</li> <li>イラスト紙を貼る際に，曲がって貼ることが予想されるので，補助線を引いておく。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎作り方の順番に従って，ペン立てを作ることができたか。(観察)</p> <p>◎教員に定規の固定をしてもらいながら，定規(線)に沿ってカッターでまっすぐに紙を切ることができたか。(観察，作品)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰にプレゼントするのか，また，どんな関わりがあったのかを，写真や贈りたい理由の書かれたふき出しで確認することで，メッセージカードを書くことができるようにする。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができたか。(メッセージカード)</p> </div>
<p>5</p>	<p>3 メッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈る人の確認をする。</li> <li>贈る人にメッセージを書く。</li> <li>メッセージを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰にプレゼントするのか，また，どんな関わりがあったのかを，写真や贈りたい理由の書かれたふき出しで確認することで，メッセージカードを書くことができるようにする。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができたか。(メッセージカード)</p> </div>


5	<p>4 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価表をもとにがんばったところ、次回がんばるところを発表する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価表に記入した評価◎○△を付けた理由が発表できたときには大いに賞賛する。</li> <li>なかなか理由が発表できないときには、先に教員の評価を見せて説明し、その後「◎はどこがうまくできた？」と発問して発表しやすくする。</li> <li>次回の課題に気付かないときには、児童の評価表の△が続いているところを指で指し、気づきやすくする。</li> <li>△が○に変わったところは、頑張ったところであることを伝え、次時の学習意欲が高まるよう賞賛する。</li> </ul>
---	---	--

(4) 板書、提示計画

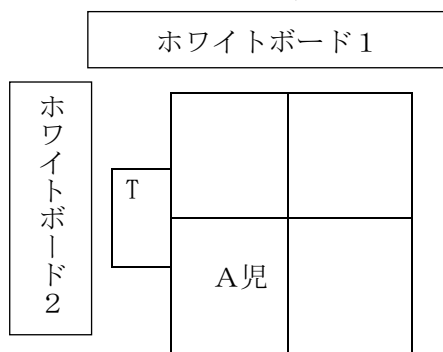
[ボード1]



[ボード2]



(5) 場の設定 (座席配置図, 環境図等)





## 学習指導案 ②

<p>&lt;対象とした児童&gt; 1年 性別 女 B</p> <p>&lt;個別の指導計画から&gt;</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鼻漏れの有無を意識しながら呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】</li> <li>・「キ」音を短文レベルで正しく発音することができる。【6-(2)】</li> <li>・いろいろな活動場面を通して、ことばのやりとりを楽しむことができる。【6-(1)】</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブローイング学習」では、Bが興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼吸を口腔から出す動作の定着を図る。合理①-2-1</li> <li>・「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につけながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、Bが正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図る。合理①-2-1</li> <li>・「キ」のつくことばを使ったゲームを取り入れる。</li> </ul>
---

### 小学校 言語障害特別支援学級 自立活動学習指導案

1 題材名 「キ」をつかったことばあそびをしよう

2 題材について

(1) 対象児童の題材における実態

本学級に在籍している1年Bは、先天性両感音難聴である。聴力は、右耳が50 dB、左耳が91 dB程度であるが、右耳は補聴器を装用することで20~40 dB程度になり、静かな環境で正面から聞けば、通常の会話はほぼ理解し、交流学級の児童と一緒に行動することができる。語音弁別では、集団行動の中でいろいろな音が混ざった状態で聞くと、口形が似ている音は聞き誤ることもある。しかし、個別学習では単音での50音は正しく弁別できる。発音は、イ列音・ウ列音が、難聴児によく見られる息が鼻から抜けた音「鼻咽腔構音」になる。

本校入学前は、ことばの教室に通級し、「ウ」「イ」「サ」行音を練習してきた。「ウ」「イ」については、短文レベルで正しく発音できるようになった。

本校入学後、1学期は、前年からの継続指導で「サ」行音を中心とした発音指導（単語レベル→文章レベル）を行い、「シ」以外の音は会話レベルでも正しく発音できるようになった。鼻咽腔構音になっていた「シ」も、息が鼻から抜けてしまうこともあるが、言い直しをさせることで自己修正することができるようになってきている。また、「チ」は正しく発音することができる。

(2) 題材観

1学期終了後、専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。Bは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力があり、正誤音の聞き分けもできているため、鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。そのため、今後は、呼吸を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」（吹く学習）を意識的に取り入れながら、Bが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。

本題材で取り上げる「キ」音を、Bは鼻咽腔構音になったり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外のカ行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導しやすいのではないかと考えた。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、「ブローイング学習」では、Bが興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼吸を口腔から出す動作の定着を図りたい。「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につけながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、Bが正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図り、交流学級に戻った時に、自信をもって話すことができるように支援していきたい。

### 3 児童の実態と個別目標

<p>&lt;題材における実態&gt;</p> <p>○きこえについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先天性両感音難聴</li> <li>・右 50 dB (補聴器装用時 20~40 dB) 左 91 dB</li> </ul> <p>○知能検査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田中ビネー-V IQ〇〇</li> <li>・WPPSI検査 VIQ〇〇 PIQ〇〇 FIQ〇〇</li> <li>・S-M社会生活能力検査 SA〇〇 SQ〇〇</li> </ul> <p>○発音について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イ列音・ウ列音が鼻咽腔構音になる。</li> <li>・「キ・ギ」が「チ・ヂ」に置換することがある。</li> </ul> <p>○専門機関との連携 合理②-1</p> <p>専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。Bは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力はあり、正誤音の聞き分けもできている。そのため、鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。今後は、呼吸を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」(吹く学習)を意識的に取り入れながら、Bが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。</p> <p>○音の焦点化「キ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キ」音を、Bは鼻咽腔構音になったり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外のカ行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導していく。</li> <li>・「カ」行音は、構音発達基準が3歳であり、発達上比較的早い段階で獲得しやすい音である。</li> </ul>
<p>&lt;題材における目標&gt;</p> <p>○強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】</p> <p>○口形と舌の形を意識して意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。【6-(2)】</p> <p>○ゲームを取り入れることで、話をする楽しさを知り、意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】</p>

### 4 指導計画と評価 (20時間扱い)

- 第1次 舌の運動をしよう (平らな舌づくり) . . . . . 2時間
- 第2次 単音で発音できるようにしよう . . . . . 5時間
- 第3次 「キ」のつく言葉を練習しよう . . . . . 13時間

時	主な学習内容・活動	評価
1~3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(強く吹く)</li> <li>・「キ」+母音, 母音+「キ」の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○強い呼吸を口腔から出すことができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しい口形と舌の形で無意味音節「キ」+母音を発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> </ul>
4~8 (本時は7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(強弱をつける)</li> <li>・「キ」+子音, 子音+「キ」の練習をする。</li> <li>・ことば遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」+子音を正しく発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。(発音時の様子の観察)【6-(1)】</li> </ul>
7~13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(弱く長く)</li> <li>・「キ」のつく単語で練習する。</li> <li>・ことば遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長く弱く呼吸を口腔から出すことができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。(発音時の様子の観察)【6-(1)】</li> </ul>

### 5 本時の指導



#### (1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイング学習を通して、口から息を出したり吸ったりすることができるようになった。息の強弱や長短等を意識して吹くことができるようになってきた。</li> <li>・「キ」単音では、正しく発音できるようになってきた。無意味音節「キ」+子音では、子音がイ列音だと鼻咽腔構音になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブローイングの学習を通して、強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して「キ」+無意味音節を発音することができる。【6-(2)】</li> <li>○ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】</li> </ul>

(2) 準備・資料

鏡、口の体操カード、たまごボーロ、舌圧子、口腔模型、ワークシート、ホワイトボード、ブローイング教材、ICレコーダー

(3) 展開

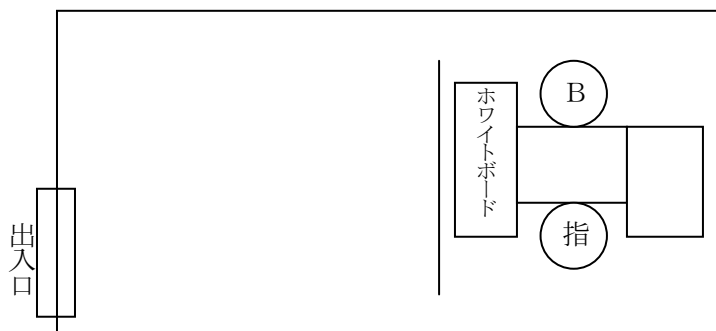
時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
2	1 あいさつをする。 2 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダー・天気・予定</li> <li>◎「キ」を正しくはつおんしょう</li> <li>◎「キ」をつかったことはあそびをしよう</li> <li>・口の体操</li> <li>・吹く練習</li> <li>・発音の練習「キ」</li> <li>・はつおんビンゴゲーム</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正しくして、元気よくあいさつするように言葉かけをする。</li> <li>・あいさつや会話をする中で、Bの状態を観察する。</li> <li>・ホワイトボードに本時の流れを提示し、学習課題や内容を知らせることで、見通しをもって最後まで意欲的に取り組めるようにする。【2-(2)】</li> <li>・各学習に入るときは、Bが学習課題を読むようにすることで、話す機会を多く持つようにする。【6-(2)】合理①-1-2</li> <li>・ゆっくりとした発話速度で話すことを心がける。【6-(2)】</li> <li>・安心し、リラックスできる雰囲気づくりに心がける。【2-(2)】</li> <li>・Bからの話しかけや関わりに受容的に応じるようにする。【6-(2)】</li> </ul>
3	3 口の体操をする。 (1) 母音の練習 (2) 舌の運動 前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡を使うことで、自分の口の動きと手本の口の動きを見比べながら取り組めるように促す。【4-(2)】</li> <li>・指を使って数を数えることで、見通しをもって意欲的に取り組むことができるようにする。【4-(2)】合理①-1-1</li> <li>・たまごボーロを奥舌の上に乗せ、軟口蓋につけてつぶすようにすることで、「カ」行音の構音方法で使う舌の動きを誘導する。【6-(1)】</li> </ul>
7	4 吹く練習をしよう。 (1) 球吹き  (2) 鉄棒くん 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bの取り組みを言語化しモニタリングして認めたり、賞賛したりすることで支持していく。【6-(1)】</li> <li>・「球吹き」「鉄棒くん」等の教材を通して、口から強く息を出すことを意識できるようにする。【6-(1)】合理①-2-1</li> <li>・「速い回転」「遅い回転」等の言葉を言いながら手本を示すことで、吹く息の強弱の違いを意識できるようにする。【6-(1)】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎強弱をつけて呼気を口腔から出すことができたか。          (発音時の様子の観察、教材の回転数)</p> </div>
18	5 発音の練習をする。 (1) 「カ」行音の発音の仕方を確認する。 (2) カ、ク、ケ、コの練習 (3) 「キ」音の練習 (4) 「キ」ばかり言葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前前の音数を「キ」だけで言う。</li> <li>・「キ」だけであいさつする。等</li> </ul> (5) 無意味音節の練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>「キ」+子音</li> <li>「子音」+「キ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カ」行音の構音方法を口腔模型も使って視覚的に理解できるようにする。【4-(2)】</li> <li>・「舌の奥を上につけて言う」「口から息を出す」のように言語化して、提示することで構音方法を理解できるようにする。【4-(2)】</li> <li>・鼻に抜ける音になってしまう時は、鼻孔を閉じて発音したり、「口から出すよ」と言ったりして、口から息を出す感覚を確認したりしてから、再度「キ」に近づけていくようにする。【6-(1)】</li> <li>・日常生活に出てくる音を「キ」に置き換えて発音することで、楽しみながら練習できるようにする。【6-(1)】</li> <li>・無意味音節のワークシートでは、Bが知っている言葉を書けるようにして、B自身が練習問題を作ることで、意欲的に取り組めるようにする。【6-(2)】合理①-2-1</li> <li>・ICレコーダーを使い、正しく発音した音をBにフィードバックして、達成感を味わえるようにする。【4-(2)】合理①-2-1</li> </ul>

	「子音」 + 「キ」 + 「子音」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく発音できた時は、大いに賞賛し自信をもてるようにする。【6-(1)】</li> <li>・練習した発音の仕方を意識して取り組むことを確認する。【6-(1)】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」 + 子音を正しく発音できたか。(発音時の様子の観察・ICレコーダー)</p> </div>
12	6 ことば遊びをする。 ・「キ」が入った言葉ビンゴゲームをする。	<p>※少しでも話し方に工夫が見られた時には認め、声を出す楽しさを感じられるようにする。【6-(1)】合理①-1-1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができたか。(発音時の様子の観察)</p> </div>
3	7 本時を振り返り、次時の学習について知る。 8 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りでは、Bが発言する機会を作ったり、がんばりを賞賛し認めたりすることで次時の意欲につなげる。</li> </ul>





(4) 板書計画

○月○日 かようび 天気 学習の予定 ・はじめのあいさつ ・カレンダー・天気・今日の予定 ◎「キ」をただしくはつおんしよう ◎「キ」をつかったことばあそびをしよう ・くちのたいそう ・ふくれんしゅう ・はつおんのれんしゅう「キ」 ・はつおんビンゴゲーム「キ」 ・ふりかえり ・おわりのあいさつ
---

(5) 座席図 (配置図)



(6) 教材・教具の工夫について

ブローイング教材 「球吹き」	ブローイング教材 「鉄棒くん」	無意味音節練習ワークシート	ICレコーダー
			
<ul style="list-style-type: none"> <li>息を吹きかけることで、球が浮き上がる教材。</li> <li>軽い球なので、ストローで吸い取ることもできる。</li> <li>「吹く」動作のフィードバックが容易に得られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>息を吹きかけることで、鉄棒をつかんでいるキャラクターを回転させる教材。</li> <li>児童をキャラクターにすることによって興味・関心をもち意欲的に取り組むことができる。</li> <li>「1回転」「3回転」と回転数を指示することで、息の強弱への意識を高めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キ」の無意味音節を練習するワークシート。</li> <li>かっこの中にことばを入れられるようになっており、児童の知識や語彙量を生かして本人と一緒に作ることができるので、意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の声を録音して、正しく発音しているかどうかをフィードバックする。</li> <li>難聴のため、レコーダーを耳元につけることで、自分の発音の正誤を確認することができる。</li> </ul>

# 学習指導案 ③

<対象とした児童> 4年 性別 女 C <個別の指導計画から> ○短期目標 ・九九表を見なくても簡単なわり算の計算ができる。 ・10の補数を言うことができる。 ○手立て ・九九の6～9の段について暗唱できるように、九九表やフラッシュカード等を用いて繰り返し練習を行う。 ・10になる組み合わせについて、フラッシュカードを用いて、ゲーム的に毎日練習をする。
--

## 小学校 言語障害特別支援学級 算数科学習指導案

### 1 単元名 式と計算

### 2 単元について

#### (1) 対象児童の単元における実態

算数への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物を使う算数的活動には意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・課題が難しいと感じると「できない」と言って諦めてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題は、加減乗除のどれを使って問題を解けばよいか分からないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法と減法は指を使って計算している。</li> <li>・乗法や除法では、九九表を見ずにできるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法の交換法則や( )の中を先に計算することを理解している。</li> </ul>

#### <自立活動に関する実態>

- ・学習に集中できる時間が短く、姿勢が崩れたり、離席したりしがちである。
- ・身に付いている生活言語が少なく、自分の思ったことや考えたことを伝えるのに、どんな言葉で表現すればよいか分からなくなってしまうことがある。
- ・様々なことに興味・関心を持ち、積極的に取り組むことができる。
- ・自分の感情を抑えることができ、友達とのコミュニケーションをスムーズにとることができる。
- ・身の回りのことを自分で行うことができ、買い物の経験も多い。

#### <実態把握に関して工夫した点>

- ・本単元につながる既習事項に関して、観点別のレディネステストを実施し、あと少しでできそうなところや苦手とするところを把握した。
- ・学習に集中して取り組むことのできる時間を計り、どんなときに集中し、どんなときに集中できなくなるのかを観察した。
- ・交流学級の担任から、集団の中での学習の取り組みの様子の聞き取りを行った。
- ・学習課題で買い物の場面を多く使うので、買い物の経験やお金の扱い方、おつりの出し方や金額がどれくらい分かるかを本人に聞いたり、実際にさせてみてチェックした。

#### (2) 単元観

本単元では、学習指導要領第4学年の内容「D 数量関係(2)数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする」を受けた内容で、場面の数量の関係を読み取って、それを( )を用いた1つの式に表したり、四則混合の式に表したりするとともに、そのような式における計算の順序やきまりについて理解することをねらいとしている。

児童はこれまでに、四則の計算や( )の中を先に計算することを学んできている。本単元では、さらに( )をひとまとまりのものとして考えることを学び、( )を先に計算すること、乗法や除法を加法や減法よりも先に計算することを理解させ、計算の習熟を図っていく。

また、( )を用いることで、1つの式に表せることを理解させ、それによって数量の関係をより簡潔に明確に表すことができるよさを理解させていく。

式は、答えを導くための計算過程を表すだけでなく、数量の関係を表すことができるというもう1つの側面についての理解も深めながら、式に表すことのよさを感じ取らせたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

Cは、四則の計算には意欲的に取り組むが、文章題が苦手である。文章を読み、場面を想像し、図や式に表すことに困難が見られる。

そこで、Cが日常経験している買い物の場面から問題を設定し、実際に活動場面を設けることで、問題場面をことばの式と関連付けながら問題解決を図っていききたい。

( )を用いた式では、Cに身近な買い物の場面から問題を提示し、実際に具体物で買い物の模擬体験を行いながら、買い物の仕方を考える。おつりを求める式を立てる際には、「出したお金」「代金」「おつり」の言葉を手がかりにし、「出したお金－代金＝おつり」の式にあてはめることで1つの式に表していききたい。その際に単に( )から先に計算すればよいだけでなく問題の意味を考えてひとまとまりとして見るのに( )を用いるとよいことに気付くようにしていききたい。また、式から問題を作らせてみることで、( )を用いた式が適用できるようにしていききたい。

かけ算やわり算をひとまとまりとし、( )を用いなくてもよい式でも、どんな買い方をするのか実際に行いながら、問題の場面を捉えさせることで、( )がなくてもひとまとまりとして見ることができるとに気付くようにしていききたい。Cは「～のいくつ分」がかけ算になることや、「～の半分」が割り算になることをよく理解していないところもあるため、問題を十分に読ませ、キーワードに注目できるようにすることでどんな式にすればよいか考えられるようにしたい。

計算のきまりでは、●と○を使ったアレイ図を用いて分配法則について学習する。アレイ図の中にどのまとまりを基にすればよいかを書き込ませ、1つの式に表し、●と○が全部でいくつあるか自分の言葉で説明できるようにしたい。また、基にするまとまりは同じにした別の数え方を考えさせ、分配法則についての理解を図りたい。●と○の図を見て式に表したり、式から図を考えたりする方法も取り入れていききたい。

単元のまとめでは、さまざまな問題を解いたり、作ったりすることで四則混合式の計算の仕方が定着するように指導していききたい。

Cの実態として集中することのできる時間が短く、姿勢が崩れやすいことや操作活動は進んで行うことなどを踏まえ、学習の見通しを持たせ、時間を設定したり、具体物や半具体物を操作しながら問題を解いたりすることで、姿勢を崩さずに集中できる時間を持続させていききたい。

3 単元の目標

- (1) 課題の数値を簡単にしたり、問題場面を動作化させたりすることで、課題を理解し、1つの式に表そうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 問題場面を( )を用いた式や四則混合の式に表し、計算することができる。(数学的な技能)
- (3) 学習の流れを知ること、見通しを持って学習に取り組む時間を延ばすことができる。【2-(1)】

<目標設定に関して工夫した点>  
 ・児童の実態を踏まえ、どのような支援をすればCが意欲を持続させながら学習できるか、また、どのような学習過程で単元の目標に到達するのかを考え、目標を設定した。

4 指導計画と評価(6時間扱い)

第1次 ( )のある式・・・・・・・・・・ 2時間

時	主な学習内容・活動	評価
1 (本時)	加減混合の問題を、( )を用いて数量の関係を1つの式で表し、計算の順序を考えて、問題を解決する。	○おつりの求め方を1つの式に表し、( )を先に計算することができる。 (数学的な技能)
2	四則混合の問題を( )を用いて1つの式で表し、計算の順序の理解を深める。	○2段階の構造(加法、乗法)の問題を( )を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序が分かる。(知識・理解)

第2次 +, -と×, ÷のまじった式・・・・・・・・ 2時間

第3次 計算のきまり・・・・・・・・・・ 1時間

第4次 まとめ・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導


(1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物の経験は多く、必要なお金を出すことができる。</li> <li>・文章題が苦手、課題を把握することが難しい。</li> <li>・四則の計算は指を使うが、簡単な数値なら正確に行うことができる。</li> <li>・集中する時間が短く、離席してしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題場面を動作化し、ヒントを得ることでおつりを求める式をノートに書くことができる。(数学的な見方や考え方)</li> <li>○数値を簡単にすることで、( )を使った式を正しく計算することができる。(数学的な技能)</li> <li>○学習の流れを知らせ、時間を設定することで20分は姿勢を崩さずに学習に取り組むことができる。【2-(1)】</li> </ul>

(2) 準備・資料

学習の流れ，課題文，4つのお菓子箱，お菓子の写真，かご，お金，言葉の式（掲示用），振り返りカード，計算機，タイマー

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価 ☆自立活動に関する支援)																	
10	<p>1 本時の学習を確認し，買い物をしたときのおつりの出し方を確かめる。</p> <table border="1" data-bbox="231 392 766 459"> <tr> <td>1 復習</td> <td>2 今日の課題</td> <td>3 考えよう</td> </tr> <tr> <td>4 発表</td> <td>5 練習</td> <td>6 まとめ</td> </tr> </table> <p>〇〇さんが100円を持って買い物に行きました。60円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。</p> <p>(1) おつりの求め方を式を立てる。 ・ <math>100 - 60 = 40</math></p> <p>(2) 言葉の式をあてはめる。 ・ 払ったお金 - 代金 = おつり</p>	1 復習	2 今日の課題	3 考えよう	4 発表	5 練習	6 まとめ	<p>☆本時の学習の流れを示すことで，見通しをもって取り組むことができるようにする。【2-(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習問題は，本時の課題と似ている問題を出すことで，おつりをどのように求めればよいかイメージをもちやすくする。</li> <li>・ 児童の発言を受けながら，買い物をしたときのおつりは減法で求めることを確認する。</li> <li>・ 言葉の式を確認し，掲示しておくことで，本時の課題解決の手がかりとさせたい。</li> <li>・ 言葉の式を残し，復習の課題は外すようにする。</li> <li>・ どんな品物の組み合わせがあるか確かめる。</li> <li>・ 課題は文章を短くし，写真で表すことで問題場面を捉えやすくしておく。</li> <li>・ 買い物の場面を実際に動作化して，2つまとめて買うのか，別々に買うのかを確かめ，式に生かせるようにする。</li> <li>・ 課題の把握を促し，集中力を持続させるために，席を離れて活動する機会を設ける。合理①-1-2</li> </ul>											
1 復習	2 今日の課題	3 考えよう																	
4 発表	5 練習	6 まとめ																	
10	<p>2 本時の学習課題を知る。</p> <table border="1" data-bbox="231 873 766 1064"> <tr> <td colspan="4">500円を持っておやつを2つ買いました。</td> </tr> <tr> <td>チョコ 150円</td> <td>あめ 180円</td> <td>クッキー 250円</td> <td>アイス 200円</td> </tr> <tr> <td colspan="4">おつりはいくらでしょう。</td> </tr> </table> <p>・ 何を買うのか品物を2つ選ぶ。 チョコとあめ      チョコとクッキー あめとアイス      など</p>	500円を持っておやつを2つ買いました。				チョコ 150円	あめ 180円	クッキー 250円	アイス 200円	おつりはいくらでしょう。				 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4つの品物の中から自分が欲しい品物を2つ選ばせ，課題に対する意欲をもたせたい。</li> <li>・ どの組み合わせで選んでも，500円は超えないよう設定しておくようにする。</li> <li>・ おつりは500円より少なくなることをおさえておく。</li> </ul>					
500円を持っておやつを2つ買いました。																			
チョコ 150円	あめ 180円	クッキー 250円	アイス 200円																
おつりはいくらでしょう。																			
	<p>3 解決の方法を考える。 おつりがいくらになるか答えを求める。</p> <p>例) チョコとあめの組み合わせ</p> <table border="1" data-bbox="263 1736 774 2004"> <tr> <td>ア</td> <td><math>150 + 180 = 330</math></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>500 - 330 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td><math>500 - 150 = 350</math></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>350 - 180 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td><math>500 - 150 - 180 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td><math>500 - (150 + 180) = 170</math></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td><math>500 - 330 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>カ</td> <td><math>500 - 150 + 180 = 170</math></td> </tr> </table>	ア	$150 + 180 = 330$		$500 - 330 = 170$	イ	$500 - 150 = 350$		$350 - 180 = 170$	ウ	$500 - 150 - 180 = 170$	エ	$500 - (150 + 180) = 170$	オ	$500 - 330 = 170$	カ	$500 - 150 + 180 = 170$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 式が思い浮かばない場合は，言葉の式にあてはめ，おつりを求める前に何を求めればよいか問いかける。</li> <li>・ 自力解決が困難な場合は，タイマーを使って時間を区切り教師にヒントをもらいながら一緒に式を導き出すようにする。</li> <li>・ 答えを求めることができたなら，説明をノートに書いてみるよう促す。</li> <li>・ ノートに式を書くことができたなら，板書し発表の準備をする。</li> <li>・ 計算に時間がかかる場合は，計算機を使用してもよいこととする。合理①-1-1</li> </ul> <table border="1" data-bbox="813 2027 1452 2105"> <tr> <td>◎ヒントをもらうことでおつりを求める式を立てることができたか。(ノート…考え方)</td> </tr> </table>	◎ヒントをもらうことでおつりを求める式を立てることができたか。(ノート…考え方)
ア	$150 + 180 = 330$																		
	$500 - 330 = 170$																		
イ	$500 - 150 = 350$																		
	$350 - 180 = 170$																		
ウ	$500 - 150 - 180 = 170$																		
エ	$500 - (150 + 180) = 170$																		
オ	$500 - 330 = 170$																		
カ	$500 - 150 + 180 = 170$																		
◎ヒントをもらうことでおつりを求める式を立てることができたか。(ノート…考え方)																			

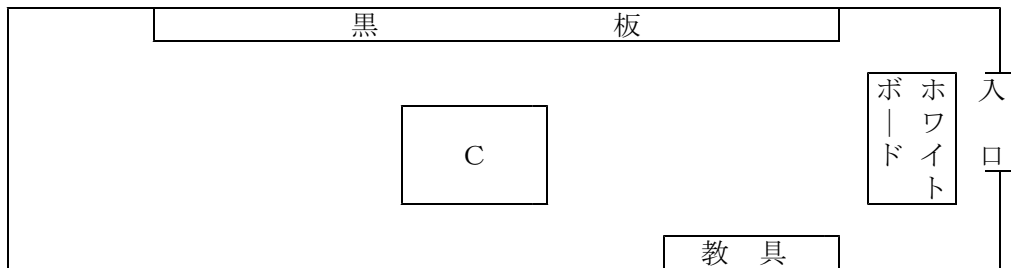


10	<p>4 自分の考えを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は～で考えました。</li> <li>・はじめに～をしました。</li> <li>・次に～をしました。</li> <li>・答えは～になりました。</li> </ul> </div> <p>5 解き方(式)の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アの2つの式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>150 + 180 = 330</math>  <math>500 - 330 = 170</math> </div> </li> <li>・イとウの式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>500 - 150 = 350</math>  <math>350 - 180 = 170</math>  <math>500 - 150 - 180 = 170</math> </div> </li> <li>・カの( )のない式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>500 - 150 + 180 = 170</math> </div> </li> </ul>	<p>☆発表が困難なときは、「発表の仕方」を見ながらすることで、自信をもって発表できるようにする。【6-(3)】合理①-1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの方法で行っても答えを導き出せたときは賞賛する。</li> <li>・児童の考えを広げられるように、質問しながら練り上げるようにする。</li> <li>・言葉の式にあてはめ、1つの式にできないか促してみる。</li> <li>・買い物かごに2つの品物を入れたことを想起させ、( )はかごと同じようにまとめることができることに気づかせたい。</li> <li>・先に計算するときには何をすればよいかを問いかけ、( )を使うことで1つの式になることを確認する。</li> <li>・言葉の式にあてはめることで、おつりの出し方が分かりやすいのは2つの式か1つの式かどちらかを比べさせるようにする。</li> <li>・買い物の模擬体験をとおして、アやエとの買い物の仕方の違いに気付かせたい。</li> <li>・言葉の式にあてはめられる式も考えてみるよう促す。</li> <li>・( )を使った式で解いた場合でも、あえて( )のない式を提示し、( )がないと、おつりが500円より大きくなってしまいうことに気付かせ、( )を使う意味を考えさせたい。</li> </ul> <p>☆集中して話が聞けないときは名前を呼んで目を合わせるようにする。 【2-(2)】</p>
5	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・( )は代金をまとめて表している。</li> <li>・( )はひとまとまりと見て先に計算する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の式にあてはめることで、代金を( )でまとめて表していることに気付かせたい。</li> <li>・今日の学習でどんなことが分かったかを児童に聞きながら学習のまとめを板書する。</li> </ul>
10	<p>7 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題から別の2つの品物を選んで( )を使った1つの式にして計算する。</li> <li>・<math>300 - (100 + 150) = 50</math>の問題作りをする。</li> </ul> <p>8 本時の学習を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習問題を解き、本時に学習した( )を使った式の計算の定着を図る。</li> <li>・式から問題を作ること、( )はまとまりを意味することをつかませたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ ( )を使った式を正しく計算することができたか。(プリント…技能)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容と自分の取組について振り返りカードへ記入させることで本時を振り返る。</li> <li>・今日分かったことを言葉で伝えられるようにする。</li> <li>・今日頑張っていたことをCに言葉で伝えるようにし、次時への意欲につながるようにする。</li> </ul>

(4) 板書計画

<p>10/8</p> <p>問 1</p> <p>〇〇さんが100円を持って買い物に行きました。お店で60円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。</p> <p>② <math>100 - 60 = 40</math></p> <p>ことばの式</p> <p>持っていたお金 - 代金 = おつり</p> <p>問 2</p> <p>500円を持っておやつを2つ買いました。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 10px;"> <tr><td>チョコ</td><td>あめ</td><td>クッキー</td><td>アイス</td></tr> <tr><td>150円</td><td>180円</td><td>250円</td><td>200円</td></tr> </table> <p>おつりはいくらでしょう。</p> <p>組み合わせ</p> <p>チョコとあめ クッキーとアイス</p>	チョコ	あめ	クッキー	アイス	150円	180円	250円	200円	<p>④ ・( ) は代金をまとめて表している。 ・( ) はひとまとまりと見て先に計算する。</p> <p>( ) のない式 <math>500 - 150 + 180 =</math></p> <p>⑤ Cが自分で考えた式を板書する 例) <math>500 - (150 + 180) = 170</math></p> <p>⑥ 170円</p>
チョコ	あめ	クッキー	アイス						
150円	180円	250円	200円						

(5) 座席図 (配置図)



(6) 導入, 展開, まとめの工夫

○学習スタイルのパターン化

算数科における問題解決学習の流れで、いつも大体同じパターンで学習を行っている。しかし、Cの落ち着きに欠ける実態から、同じパターンであっても視覚的に流れを示し、今どの場所の課題に取り組んでいるのかを分かるようにした。



○導入時の復習

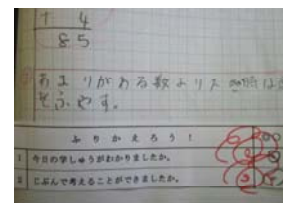
Cは前の日に学習したことも覚えていないことが多く、新しく学習することに既習事項が生かせないことが多いため、必ず復習し、本時の学習に生かせるようにした。

○体を動かす

授業に集中できる時間が短いので、授業の中に操作活動や発表、物を取ってくるなど、立ったり座ったりする時間を取り入れて授業を展開している。

○振り返り

簡単な振り返りカードを使い、本時の学習が理解できたかどうかチェックできるようにした。分かったことをCが自分の言葉で言うことで本時のねらいが達成できたか確かめる。Cが本時で頑張っていたこと伝え、達成感を味わうことができるようにした。



# 学習指導案 ④

〈対象とした児童〉 5年 性別 男 D
〈個別の指導計画から〉 ○短期目標 ・月末テストで半分以上の漢字を正確に書くことができる。 ・原稿用紙に半分（200字）程度の自由作文を書くことができる。  ○手立て ・児童の実態に合わせた学習時間を設定し、学習内容を変更・調整する。 合理①-1-2 ・視覚的な教材を用いることで、理解することができるようにする。 合理①-2-1

## 小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 国語科学習指導案

### 1 単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう

### 2 単元について

#### (1) 対象児童の国語科における実態

項目	国語への関心・意欲・態度	能力	言語についての知識・理解・技能
A 話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味がある内容や自分で体験したことなどについては、自分から話したり聞いたりしようとする。</li> <li>相手に分かるように話そうとしたり、大事なことを落とさないように聞こうとしたりする態度はあまり見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事柄については興味をもって聞いたり、質問をすれば自分から話したりすることができる。</li> <li>視覚優位のために耳からの情報が入らず、大事なことを聞きもらすことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手やその場の状況に応じて適切な音量や速さ、ていねいな言葉で話することができる。</li> <li>文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり話したりすることが難しい。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書を写したり、教科書を視写したりするのは、時間はかかるがていねいに書こうとする。</li> <li>日記や作文などは、写真や絵などの手立てがあると自分から書こうとするが、書くように促されただけでは活動が滞ってしまうことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語の関係を意識しながら短い文章を書くことができる。</li> <li>書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、書く順序を考えたりして文章を書くことは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の大きさや形を整えて書くことができ、下学年の漢字は約7割、当該学年の漢字は約半分くらい書くことができる。</li> <li>会話文の書き方や改行の仕方を理解して文章を書くことは難しい。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の時間を好み、課題が早く終わったときには進んで本を読もうとすることが多い。</li> <li>興味が偏っていたり、絵ばかり追っていたりする傾向がみられ、目的に応じて読もうとする態度は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書はすらすら音読できる。やさしい読み物であればだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることはできる。</li> <li>物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方情景などを想像しながら読むことは苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字を読むことができる。</li> <li>語句の意味や言葉の使い方を理解することが難しい。</li> </ul>

#### (2) 単元観

教材「注文の多い料理店」は、中心人物である二人の紳士が「現実の世界」から「ふしぎな世界」へ行き、再び「現実の世界」に戻るという流れになっており、読み手を不思議な世界へと誘う効果がある。Dは長編の物語は内容を読み取ることに難しさを感じ、積極的に読もうとはしない。そこで、本教材で登場する紳士の人柄や様子を表す言葉の意味、表現等をおさえながら、紳士たちの言動を具体的にイメージすることで、人物の気持ちをとらえることができ、物語の内容を理解することができるようになるのではないかと考えた。また、二人の紳士が、山猫の毘にはまっていくスリル感を味わわせることで、物語文への興味・関心を高めたい。長編の物語の内容を読み取ることで、児童の読書生活が豊かに広がるのではないかと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

物語文に苦手意識をもつDの実態に合わせ、取扱い時数を通常より多めにとって丁寧に指導に当たることにした。1学期の物語教材で、「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの構成をとらえる学習を経験したが、内容を読み取ることに難しさが見られた。そこで、6つの場面にして少ない段落での構成にすることで、読み取りが深まるのではないかと考えた。授業や家庭学習において音読を繰り返すことでも、あらすじや言葉の意味などの理解を高めることができるようにした。そして、文中の難しい語句や表現されている意味についてはさらに解説をしたり、イメージができるように視覚教材や動作化を取り入れて理解を促したりしたい。Dは書く活動に時間がかかるので、ワークシートは、書き込む部分を調整し、できるだけ児童の苦手意識をもたせないように配慮した。また、宮沢賢治作品にふれる時間を設け、物語の楽しさが分かり、読書への関心をもてるようにしたい。

3 児童の実態と個別目標

〈单元における実態〉

- やさしい物語文のだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることができる。
- 文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり、話したりすることが難しい。
- 長編の物語では、登場人物の相互関係や場面の描写を読み取ることが難しい。

〈单元における目標〉

单元の目標 (当該学年の目標・当該学年の目標を一部変更・下学年教材)

児童の実態に応じた目標を設定する。合理①-1-2

さわやか学級における単元の目標	通常の学級における単元の目標
○ 物語の楽しさがわかり、宮沢賢治の他の童話を読もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)	○ 物語に興味をもって、おもしろさの工夫を探しながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
○ 登場人物の言動を具体的にイメージし、その時の気持ちを読み取ることができる。 (読むこと)	○ 構成や文章表現の工夫などから、物語のおもしろさを読み取ることができる。 (読むこと)
○ 視覚的教材や動作化を通して、文中の語句や表現について、意味を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○ 独特な言葉の使い方や、表現上の工夫をとらえることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画と評価 (13時間扱い) 児童の実態に合わせ学習時間と学習内容を変更する。合理①-1-2

- 第1次 読んでみよう・調べてみよう・・・・・・・・・・ 2時間
- 第2次 あらすじをつかもう・・・・・・・・・・ 2時間
- 第3次 場面ごとに読み取ろう・・・・・・・・・・ 7時間
- 第4次 宮沢賢治の作品を読んでみよう・・・・・・・・・・ 2時間

次	さわやか学級での単元計画 (13時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (9時間扱い)
1	1 音読の練習をする。② 2 むずかしい言葉の意味を確かめる。	1 物語を読んで初発の感想を交流する。①
2	3 登場人物や背景を確かめながら、簡単な感想をもつ。 4 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認、だいたいのあらすじをつかむ。②	2 「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの部分に分けて物語の構成をとらえる。② 3 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認する。
3	5 第1場面を読んで、山奥で道に迷う二人の紳士の様子を読み取る。 6 第2場面を読んで、西洋料理店を見つけて喜ぶ二人の様子を読み取る。 7・8 第3場面を読んで、戸に書かれた注文に応える二人の様子や気持ちを読み取る。⑦ 9 第4場面を読んで、料理店から逃げ出そうとする二人の様子や気持ちを読み取る。(本時)	4 戸に書かれている言葉や二人の紳士の心情について読み取る。 5 物語全体を通して二人の紳士の変化を読み取る。③ 6 表現の工夫やおもしろさをとらえる。

次	さわやか学級での単元計画 (13時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (9時間扱い)
	10 第5場面を読んで、泣くこと以外何もできない二人の様子や気持ちを読み取る。 11 第6場面を読んで、助かるが紙くずのようになった顔が元に戻らない二人の様子や気持ちを読み取る。	
4	12・13 宮沢賢治の他の作品を読む。 ②	7 表現の工夫やおもしろさを解説ノートにまとめる計画を立てる。 8 解説ノートを書く。 ③ 9 解説ノートを交換して読み合い、感想を交流する。

### 5 本時の指導

#### (1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
D	○物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方、情景などを想像することは苦手である。	○二人の紳士の様子や会話文から、逃げ出したい気持ちを想像し、吹き出しに書くことができる。

#### (2) 準備・資料

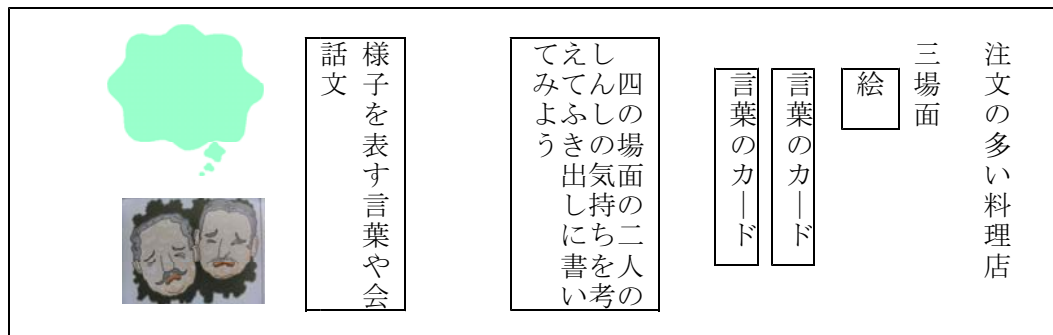
挿絵・言葉のカード、ワークシート、スリット、表情カード、振り返りカード

#### (3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
7	1 本時の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習予定表を活用することで、見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。 合理①-2-2</li> <li>挿絵や戸に書かれている言葉のカードを話の順に並び替えるよう促すことで、簡単に前時のあらすじをおさえることができるようにする。</li> <li>声に出して発表するように促すことで、本時の学習課題を意識することができるようにする。</li> </ul>
10	2 第3場面（前時）のあらすじを振り返る。 3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">4の場面の二人のしんしの気持ちを考えて、ふき出しに書いてみよう。</div>	
	(1) 第4場面を音読する。 (2) 二人の様子を表す言葉の意味や指示語を確かめる。	
25	4 二人の紳士の様子や気持ちを読み取る。 (1) 二人が、「おかしい」と気づいたところがわかる文章に線を引く。 ・今度という今度は、二人ともぎょっとして、～見合わせました。 ・「どうもおかしいぜ。」 ・「ぼくもおかしいと思う。」 (2) 「注文の多い料理店」とは本当はどんな店なのか、教科書に線を引く、ワークシートに書く。 ・西洋料理を来た人に食べさせるのではなくて、来た人を西洋料理にして食べてしまう店	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習等で事前に音読の練習を繰り返し行っていることを賞賛し、物語の内容をイメージして読むことができるように促す言葉かけをする。</li> <li>「これだけ」「向こう」「こっち」などが、何を指しているかを確かめる言葉かけをすることで、二人の様子を表す言葉の意味を理解することができるようにする。</li> <li>Dの活動が止まってしまったときには、戸のうら側に書かれた言葉の意味を確認することで、二人の会話に注目することができるようにする。</li> <li>教科書のどこに書いてあるかを、教師と一緒に確認することで、書いてある部分に分かり、ワークシートに書くことができるようにする。</li> <li>書字能力に応じたプリントを活用することで、「書くこと」への抵抗を減らして取り組むことができるようにする。 合理①-1-1</li> </ul>

2	(3) 「注文の多い料理店」がどんな店なのかわかったときの二人の様子に線を引き、ワークシートに書く。  ・がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文に注目するように促す言葉かけをすることで、怖がっている様子に気付くことができるようにする。</li> <li>・同じ文が表れる部分を確認することで、一人一人に二度書いていることに気付くことができるようにする。</li> <li>・視写する場所以外をスリットを入れた厚紙で隠し、集中して書けるようにする。</li> <li>・視点が定まらないので教科書の視写する場所を明示する。 合理①-2-1</li> <li>・紳士たちの気持ちに気付くことが難しいときには、表情カードを活用し、気持ちをイメージしやすいようにする。</li> <li>・カードを使って視覚的に確認することができるようにする。 合理①-2-1</li> </ul>
	5 本時の学習を振り返る。 振り返りカードに自分のがんばりを記録する。	
1	6 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードは、チェックでも評価できる簡単なものにする。</li> <li>・1時間のがんばりを賞賛し、次時の意欲につながるようにする。</li> </ul>

(4) 板書計画



(5) 座席図 (配置図)



(6) 教材・教具の工夫について

挿絵・言葉のカード	ワークシート	スリット	表情カード	振り返りカード
導入時に、話の順に並び替えることで、前時のあらすじを確認することができる。	授業の流れにそったワークシートに記入することで、二人の紳士の様子や気持ちを読み取ることができる。	教科書の文章を写す際に周りの文章が刺激にならないよう隠して、視写することができる。	紳士たちの気持ちに気付けない時に使用し、気持ちをふき出しに書けるようにする。	授業の終わりの振り返りで使用し、何を学習したかを自己評価できるようにする。

# 学習指導案 ⑤

<p>&lt;対象とした生徒&gt; 2年 性別 男 E</p> <p>&lt;個別の指導計画から&gt;</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次関数の関係を、表やグラフを用いて表すことができる。</li> <li>・1次関数に関わる数学的用語を理解することができる。</li> <li>・ゲームなどの活動を通して、他者とのやりとりを継続することができる。【3-(1)】</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの作図に関しては、模造紙サイズの座標平面図や磁石つきものさしを使用することで、正確な直線が引けるようにする。合理①-2-1</li> <li>・数学的用語の理解に関しては、語句カードの操作を取り入れることで、より理解を深める。合理①-2-1</li> <li>・座標ビンゴゲームを取り入れることで、Eの興味関心を高め、友達とのやりとりを継続しながら学習が進められるようにする。合理①-2-2</li> </ul>
--

## 中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 数学科学習指導案

### 1 単元名 1次関数

### 2 単元について

#### (1) 対象生徒の単元における実態

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、比例の関数に興味をもち、表を用いて考えようとする。</li> <li>・座標、関数、比例などの数学的用語に興味を示し、意味を理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係を表にし、xの値が1ずつ増加するときのyの値の変化を見いだすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係を、表やグラフなどに表すことができる。</li> <li>・座標平面図に、座標をプロットし、平面上に点を取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の特徴を理解している。</li> <li>・伴って変わる二つの数量の関係を理解している。</li> </ul>

#### (2) 単元観

この単元では、身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見つけて、それらの変化や対応を調べることを通して、比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし、グラフに表現する力を培うことを目標としている。第1学年では、関数関係にある二つの数量について、一方の値を決めれば、他方の値がただ一つ決まるような関係を学習している。このような関係は、日常生活において数量を関係的に探求する基礎となるものである。例えば、分速2kmで走っている電車が5分後にはどこにいるのか、または、座標の関連から新幹線の座席が「5D」など、具体的に事象を考察することを通して、関数関係を見いだし表現し考察する能力を身に付けることができる。第2学年では、これらの学習の上に立って、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見いだし表現し考察する能力を身に付けることができる。

#### (3) 指導にあたって

Eは、興味・関心の高い活動には、熱中し取り組むことができる。数の操作には興味・関心が高く、加法、減法、乗法の計算が得意で、暗算で正確な答えを出すことができる。しかし、興味のない活動の際には退室してトイレに行くことや眠そうな素振りを見せることが多い。そのため、集中力が持続できるような支援が必要である。トランプやUNO、ビンゴのようなゲーム的活動が好きであるため、導入や展開には、興味をもてるようにこれらの操作的活動を取り入れたい。

導入で行う数学的用語の説明の時には、黒板に重要語句カードを貼ったり、黒板に答えを書いたりするなど、身体を動かす活動を取り入れることで、注意を喚起し、意欲を高めて学習に参加できるようにする。

展開では、既習の比例（1年）時に座標の意味理解を深めるために、「座標オセロゲーム」を取り入れた。今回は、座標の意味・理解を深めるために、「座標ビンゴゲーム」を取り入れたい。Eは、座標平面上のオセロゲームには、強い関心を示し、ゲームのルールに沿って楽しく参加することで、座標をプロットする技能を身に付けることができた。さらに、確実に身に付くように、「座標ビンゴゲーム」に取り組ませたい。次に、Eは、机上で学習することに抵抗感があるので、グラフをかく活動でも、黒板に座標平面図を提示し、この表に座標をプロットさせて、座標の点を、紙テープでつなぐ活動を取り入れることで、集中して授業に参加できるようにする。また、この課題解決の方法については、発表をさせたい。

この活動を通して、自立活動の【3 人間関係の形成(1)他者とのかかわりの基礎に関すること】や【6 コミュニケーション(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。】の内容に関しても合わせて指導する。他者とのかかわりをスムーズにするために、言葉だけではなく、視覚的に分かりやすい座標ヒントカードやゲームのルールカードを提示し、自分の気持ちや意思を素直に表現し、友達と楽しくかかわれるように指導したい。また、自立活動の【2 心理的な安定(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。】の内容に関して、学習課題への自力解決を通して自信を深めて、意欲的に学習することができるように指導したい。

まとめの練習問題では、黒板に座標平面図を提示し、式と表を見ながら、座標をプロットし、紙テープとペンで座標の点をつなげることで、グラフを完成させて達成感を味わうことができるようにする。問題は1問ずつ提示し、できたら賞賛し励まし、次の問題を提示し、取り組ませたい。また、練習問題のプリントは机上用として、穴埋め式でまとめるプリントも準備することで数学的用語を再確認することができるようにしたい。

### 3 単元の目標（当該学年の目標を一部変更） 合理①-1-2

- (1) 日常生活において、具体的な事象の中から関数関係にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、事象の中にはいろいろな関数があることを知ろうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 具体的な事象のなかの1次関数の関係にある数量に着目し、1次関数の特徴を考えることができる。 (数学的な見方や考え方)
- (3) 1次関数の関係を、表やグラフを用いて、的確に表す技能を身に付けることができる。 (数学的な技能)
- (4) 「傾き」「切片」の数学的用語を理解し、1次関数のグラフをかくことができる。 (数量・図形などについての知識・理解)
- (5) ゲームなどの活動を通して、友達とのやりとりを継続することができる。 (自立活動)

### 4 単元の指導計画 合理①-1-2

次	特別支援学級での単元計画 (11時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (11時間扱い)
1	1 学習の見通しをもつ	① 1 学習の見通しをもつ ①
2	2 関数 具体的な事象の中にいろいろな関数があることを知る。	2 関数 関数の意味を理解し、比例でも反比例でもない関数があることを知る。
	3 1次関数 比例の関係を含む新しい関数について調べる。	3 1次関数 yはxの1次関数である。 ④
	4 1次関数 yはxの1次関数である。	4 1次関数の値の変化の様子 1次関数において、xの値の変化にともなって、対応するyの値がどのように変化するかを理解する。 ④
	5 1次関数の値の変化の様子 y = 2x y = 2x + 5 xとyの関係を表に表す。	5 変化の割合 変化の割合の意味を知る。



3	6	1次関数のグラフ(1) 1次関数のグラフについて調べる。	④	6	1次関数のグラフ(1) 1次関数と比例のグラフの関係, 切片を理解する。	⑤
	7	1次関数のグラフ(2) 「傾き」「切片」の数学的用語を理解する。		7	1次関数のグラフ(2) グラフの直線の傾き, 直線の式を知る。	
	8	右上がりの1次関数のグラフのかき方 2点ABを通る直線をかく。		8	1次関数のグラフのかき方	
	9	右下がりの1次関数のグラフのかき方 2点ABを通る直線をかく。		9	1次関数の式の求め方	
4	10	練習問題プリント	②	11	練習問題	①
	11	練習問題プリント, まとめ				

### 5 指導計画と評価(11時間扱い)

第1次 学習の見通しをもつ . . . . . 1時間

第2次 比例の関係を含まない新しい関数について調べよう。 . . . . 4時間

第3次 1次関数のグラフをかこう。 . . . . 4時間

時	主な学習内容・活動	評価
1	1次関数(1) ・1次関数のグラフについて調べよう。	○1次関数のグラフと比例のグラフとの関係を調べることができたか。
2	1次関数(2) ・1次関数のグラフから「切片」「傾き」の数学的用語を知ろう。	○1次関数のグラフから, 「切片」「傾き」の数学的用語を理解することができたか。
3 (本時)	1次関数のグラフをかこう。(1) ・右上がりの1次関数のグラフのかき方を考えよう。	○右上がりの1次関数のグラフをかくことができたか。
4	1次関数のグラフをかこう。(2) ・右下がりの1次関数のグラフのかき方を考えよう。	○右下がりの1次関数のグラフをかくことができたか。

第4次 まとめ . . . . . 2時間

### 6 本時の指導

#### (1) 目標

- ・グラフ上にある点を紙テープでつなぐことでグラフが右上がりの直線になることを理解することができる。
- ・傾きと切片に着目しながら2点ABをプロットし, 右上がりの直線をかくことができる。
- ・座標ビンゴゲームで, 最後まで友達とのやりとりを継続しながら活動することができる。

#### (2) 準備・資料

ビンゴ用座標平面図, 掲示用座標平面図, 紙テープ, シール, さいころ, ビンゴ用こま, 黒板用ものさし  
課題プリント

#### (3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価 ☆自立活動に関する支援)
10	1 本時の学習内容を知る。 1次関数のグラフをかこう。 ① 前時の学習内容を確認する。 ・xとyの関係を, 表やグラフから考える。	☆興味・関心の高いアニメのカードを黒板に提示することで, 黒板に注目させて, 学習に参加できるようにする。 【2-(3)】

15	<p> <math>y = 2x</math>,  <math>y = 2x + 5</math> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>y = 2x</math>の表をみて, <math>(x, y)</math>の座標を丸いシールで貼る。</li> <li>• シールを直線でつなぐ。</li> <li>• グラフに「傾き」, 「切片」のカードを貼る。</li> </ul> <p>②座標ビンゴゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 二人組で座標ビンゴゲームを行う。</li> <li>• 順番はじゃんけんで決める。</li> <li>• 二つのさいころを同時に投げる。</li> <li>• 白いさいころの目が <math>x</math>座標, 黒いさいころの目が <math>y</math>座標とし, <math>(x, y)</math>の座標にこまを置く。</li> <li>• 横並び, 縦並びのいずれかが, こまが4個並べばビンゴになる。</li> <li>• さいころで「ラッキー」が出た場合には, こまを自由に置くことができる。</li> </ul> <p>2 1次関数 <math>y = 2x + 5</math>のグラフをかく。</p> <p>①表を見て, グラフをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>y = 2x + 5</math>の表に数字を入れる。</li> <li>• 表を見ながら, 座標にシールを貼る。</li> <li>• シールの点を紙テープでつなぐ。</li> </ul> <p>②傾きと切片に着目してグラフをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 切片は+5, 点A <math>(0, 5)</math>の座標にシールを貼る。</li> <li>• 傾きは2, 点Aから右に1, 上に2進んだ点B <math>(1, 7)</math>の座標にシールを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 興味のあるカードを関連させて, 興味・関心がもてるように学習活動の導入を工夫する。合理①-2-3</li> <li>• <math>y = 2x + 5</math>のグラフの座標平面図を掲示する。</li> <li>• 磁石つきものさしを使用することで, ずれずに直線が引けるようにし, 落ち着いて取り組めるようにする。合理①-2-1</li> <li>• 語句カードで視覚的に数学的用語を確認できるようにする。</li> <li>• 座標ビンゴゲームのルールは, 黒板に提示し視覚的に分かりやすいようにし, 安心して取り組めるようにする。</li> <li>• 「座標ヒントカード」を提示し, 確認しながら座標の点をプロットできるようにする。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     座標ヒントカード: (<math>x</math>座標 <math>y</math>座標)   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ◎座標ビンゴゲームで, 最後まで友達とのやりとりを継続しながら活動することができたか。(観察)   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注意が持続できるように, 黒板の座標平面図や表を提示して数字を記入する活動ができるようにする。</li> <li>• 計算方法が分からない時には, ヒントカードを提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     できるよ!! ヒントカード  <math>y = 2 \times x + 5</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 黒板にまとめた表から, <math>x, y</math>座標の位置にシールを貼るよう助言する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ☆座標の点はシールを貼ることで, 最後まで集中して9個の点をプロットすることができるようにする。  <span style="float: right;">【2-(3)】</span> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙テープを使用し, グラフが直線になることを視覚的な情報で示す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ◎グラフが右上がりの直線になることを理解することができたか。(発表)   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁石つきものさしを使用することで, ずれずに直線が引けるようにし, 落ち着いて取り組めるようにする。合理①-2-1</li> <li>• 切片(点A)のシールと傾き(点B)のシールの2つの座標の点を結べば, 右上がりの直線のグラフがかけられることを助言する。</li> </ul>
----	--	--

	<p>貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点A Bを通る直線をかく。</li> </ul> <p>③課題解決の方法について発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切片と傾きの理解には、ヒントカードを提示する。</li> </ul> <div data-bbox="754 280 1433 492" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グラフがかけるよ!! ヒントカード          切片の座標点Aは、(0, □)          傾きが□の時は、「□」を分数にして、○分の□。          右に○進み、上に△進んだ点。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフがかけたことを賞賛することで、自信をもって自分の考えを発表できるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="754 622 1433 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎切片と傾きに注目して、点A, 点Bのシールを直線で結ぶことができたか。(観察, 座標平面上)</p> </div>
13	<p>3 練習問題を解く。</p> <p><math>y = 2x + 1</math>  <math>y = 2x - 1</math>  <math>y = 3x + 1</math>  <math>y = 3x - 3</math>  <math>y = 2x + 4</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題プリントは1枚に1問とする。合理①-3-1</li> <li>ヒントカードを提示することで。グラフのかきかたのヒントカードを活用しながら、問題に取り組めるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="882 913 1300 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グラフに挑戦!! ヒントカード</p> <math display="block">y = \textcircled{a}x + \textcircled{b}</math> <p style="text-align: center;">↓                      ↓ 傾き                      切片</p> </div> <div data-bbox="754 1187 1433 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆黒板に掲示した座標平面図にグラフをかかせることで、集中して練習問題に取り組めるようにする。【2-(3)】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフがかけたことを賞賛する。1問ごとに励ましの言葉かけをする。</li> </ul> <div data-bbox="754 1388 1433 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎5問中3問の右上がりの直線をかくことができたか。(観察, 黒板の座標平面図のグラフ)</p> </div>
10	<p>4 本時のまとめをする。</p> <div data-bbox="256 1585 715 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1次関数のグラフは右上がりの直線である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板にまとめの課題を掲示し、右と直線のカードを貼る活動を取り入れることで、最後まで取り組めるようにする。 合理①-2-1</li> <li>まとめのプリントも用意しておくことで、本人の意欲が高い場合には配付して、取り組めるようにする。</li> </ul>
2	<p>5 次時の学習の確認をする。</p>	

(4) 板書計画

1次関数のグラフをかこう。

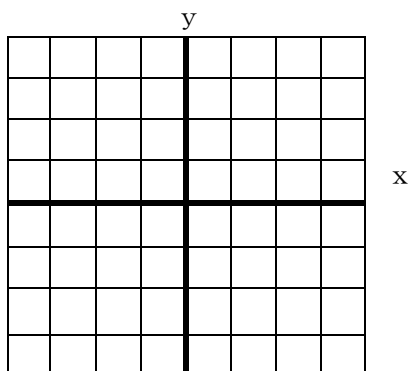
$$y = 2x$$

x	..	-2	-1	0	1	2	..
y	.						

$$y = 2x + 5 \text{ は } 2 \times x + 5 \text{ (ヒントカード)}$$

x	..	-2	-1	0	1	2	..
y	.						

$y = 2x$      $y = 2x + 5$  のグラフ



「切片」「傾き」  
座標ビンゴゲーム

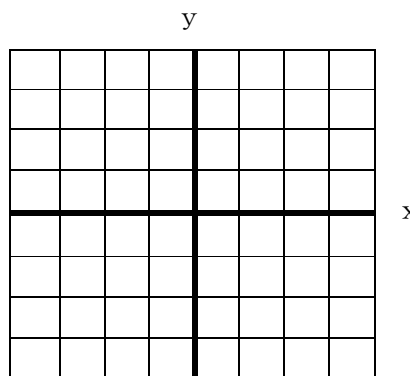
座標ビンゴゲームのルール

$y = 2x + 5$  のグラフのかき方

グラフがかけよう！**ヒントカード**

「切片」「傾き」に着目してグラフをかこう。

練習問題     $y = 2x + 1$     グラフに挑戦！！**ヒントカード**



まとめ

1次関数のグラフは右上がりの直線です。

(5) 教材・教具

黒板掲示用座標平面図, 数学重要語句カード	座標ビンゴゲーム	座標ヒントカード	グラフ用座標平面図 シール, 磁石つきものさし

# 学習指導案 ⑥

<p>〈対象とした生徒〉 2年 性別 男 F</p> <p>〈個別の指導計画から〉</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始までに、授業の準備をすることができる。【2-(1)】</li> <li>・個別指導では、決められた時間内は集中して活動に参加することができる。</li> <li>・複数のやり方で実施し、自分のやりやすいやり方を選択して、作品を仕上げることができる【2-(3)】</li> <li>・自分から「今はイライラして授業ができない」と教員に伝えて、別室で気持ちを落ち着かせてから、再び授業に参加することができる。</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や教室の変更がある時は、決定した日や当日の朝には伝える。合理①-2-3</li> <li>・授業準備の際に視覚情報として、準備を始める目安の時間や準備物を文字や図で示す。</li> <li>・集中して活動できる時間(10分)を目安として活動を区切る。また、「〇時*分～〇時*分」までと活動の時間を表示する。合理①-1-1</li> <li>・事前に授業の中でつまずきそうな活動を想定して、回避方法として2～3通りの別のやり方を用意しておき、本人の手が進まないときは、試しに他のやり方で実施し、やりやすいやり方を選択させる。合理①-1-1</li> <li>・表情の変化を注意して観察し、不安な表情の時は、気持ちを察していることが伝わるようにさりげなく言葉かけを行い、伝えるタイミングを設ける。</li> </ul>
<p>〈対象とした生徒〉 2年 性別 男 G</p> <p>〈個別の指導計画から〉</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた時間内は、課題に取り組むことができる。</li> <li>・課題が難しいときは、自分から「～が難しい」と教員や友人に伝えることができる。【3-(3)】</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に「・・・から・・・まで」や「〇時*分まで」と視覚情報として提示する。合理①-2-3</li> <li>・設定した範囲や時間は、本人が少しがんばればやりきれる量、集中できる時間とする。合理①-1-2</li> <li>・課題を複数用意する。自分でできるレベルを考えさせ、次の課題を選択できるようにする。</li> <li>・授業中の活動で本人がつまずきそうな点を事前にチェックする。活動が始まる前に、やり方は複数あることに気付けるように黒板に提示する。合理①-1-1</li> </ul>

## 中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 美術科学習指導案

1 題材名 あさがおのタペストリを作ろう

2 題材について

(1) 対象生徒の題材における実態

本学級は、3年生の男子1名、女子1名、2年生の男子4名の計6名の生徒が在籍しており、コミュニケーションが苦手な生徒が多い。今回は、2年生のFとGの2名が授業に参加する。Fは自閉症やADHDの傾向のある生徒で、手先の不器用さから水彩絵の具を用いた絵画制作では、色作りや細部の染色が苦手である。そのため作品作りでは失敗が多く、途中であきらめて活動を放棄してしまうことがある。このような行動は、教員の目を引くための不適切な行動ととらえられる。Gは家庭環境の影響から情緒不安定になる傾向はあるものの、気持ちが安定している時は、自分のペースで努力して活動に参加することができる。見通しがもてる活動には意欲的に参加し、作品づくりに意欲的に取り組むことができる。しかし、完成作品のイメージがつかめなかったり、素材や材料が多くなると工夫しすぎて作品が台無しになったりすることがある。そのための手立てとして、失敗しにくい状況を設定し、成功体験の積み上げが重要であると考えた。この2名の生徒は小学校からの友人関係であるが、お互いをライバル視しているところがあり、相手の失敗を指摘したり、相手より先に教員の目を引く行動をとろうとしたりして、トラブルになることが多い。2名は自己肯定感が低く、物事をやり遂げる経験が少ない。そこで、「自分でできた。」という自信につなげる教育活動が必要である。

(2) 題材観

本題材のあさがおのタペストリ作りは、彩色等が失敗となっても、色のにじみ具合で本物に近い朝顔が表現できる。水彩絵の具や水性サインペンを用いた色の組合せや、グラデーションの表現を通して自分のイメージの作品を作り上げる楽しさと達成感を味わわせたい。

(3) 指導にあたって

具体的な活動の流れとしては、①うちわの紙をはがす、②紙を切る、③彩色する、④形

作る、⑤うちわに貼るといように、工程は多いものの、一つ一つの作業は簡単なものが多く、多少の失敗があっても、できあがりの見栄えがし、かつその失敗もデザインの一つとして見ることができる。そこで、①～⑤の活動を通して作品を完成させる過程で、達成感を味わえるようにしたいと考えた。事前に活動の中でつまずきそうなところを想定して、回避方法として2～3通りの別のやり方を用意しておき、試しに他のやり方で行ってみてやりやすいやり方を選ぶことができるようにすることで、成功体験を積み上げていきたい。

3 単元の目標

- 色を組み合わせながら、ペーパークロマトグラフィーの効果を生かした彩色を味わうことができる。
- 絵の具と水性サインペンで塗りやすさを試して、自分のやりやすい方を選択することができる。合理①-2-1
- できないこと、難しいことを自分から伝えることができる。

4 生徒の実態と個別目標

生徒名	題材における実態	題材における目標
F 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定の変更に弱くパニックを起こし、やらないことへの言い訳を主張することがある。</li> <li>・苦手なことにとりかかるまでに時間がかかるが、活動の見通しがもてると参加することができる。</li> <li>・活動に集中できる時とできない時のムラがある。研究授業など、参観者がいるときはがんばろうとする。</li> <li>・手先が不器用なため制作活動では、失敗が目立つが、上手く作りたい気持ちは強い。</li> <li>・Gにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に予定変更を伝え、授業開始までに、準備をすることができる。【2-(1)】</li> <li>○複数のやり方を試して、自分のやりやすいやり方を選ぶことができる。【3-(3)】</li> <li>○難しくできなくなったときにイライラしていることを自分から伝えることができる。【2-(2)】</li> </ul>
G 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立するために、自分でできることを増やしたいという意欲は高い。</li> <li>・絵の具の扱いなど、苦手なことでもコツコツとがんばろうとする。</li> <li>・Fにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できないこと、難しいときにやり方のヒントを教員に求めることができる。【3-(3)】</li> </ul>

5 指導計画（4時間取り扱い）

第1次 あさがおの花を作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

時	学習内容・活動	評価
1	①オリエンテーション ②制作する。 ・コーヒーフィルターに型どりを する。 ・ハサミで切る。 ・絵の具で彩色する。 ③片付け・学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハサミなどの道具や材料を、安全かつ適切に使用することができる。</li> <li>○苦手な活動でも、決められた時間（10分）はその活動に取り組むことができる。【2-(1)】</li> </ul>
2 (本時)	①学習課題を確認する。 ②彩色の方法を選択し制作する。 ・絵の具 ・水性サインペン 合理①-2-1 ③片付け・学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵の具と水性サインペンを両方試すことで、自分が使いやすい方を選び、彩色することができる。【2-(1)】</li> <li>○彩色が上手くできないときや色の組合せで迷っているとき、自分から「～が難しい」と伝え、教員のヒントを手掛りに活動を続けることができる。【3-(3)】</li> </ul>

第2次 タペストリの準備をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第3次 花を貼り付けて、うちわを完成させよう・・・・・・・・・・1時間

6 本時の指導

(1) 生徒の実態と個別目標

生徒名	対象生徒の実態	本時の個別目標
F 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることの順番がわかると、一人で確認しながら取り組むことができる。</li> <li>・彩色、裁断等は苦手であり、取り組むまでに時間がかかる。</li> <li>・絵の具の扱いが苦手で、失敗すると集中力が切れてしまい、活動をやめてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水性サインペンを使うと彩色が簡単であることに気付き、水性サインペンで彩色することができる。【2-(1)】</li> <li>○失敗したときに、活動をやめずに作品づくりに取り組むことができる。【2-(2)】</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に集中できる時とできない時のムラがあるが、参観者等がいるときは、できるところを見せたがる。</li> <li>制作活動で順調にできていると、本人なりの工夫をすることができる。</li> <li>Gにライバル意識をもっている。</li> </ul>	
G 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具の扱いなど、苦手なことでもコツコツとがんばろうとする。</li> <li>失敗を繰り返すと活動を放棄してしまう。</li> <li>制作活動にこり出すと集中して取り組むことができる。</li> <li>Fにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から「～が難しい」と伝え、教員からのヒントを手掛かりに、できる方法を見いだすことができる。【3-(3)】</li> <li>○水性サインペンを使うと彩色が簡単であることに気付き、水性サインペンで彩色することができる。【2-(1)】</li> </ul>

(2) 準備物等

- 教員： ① 掲示物（絵の具）  
 ② 掲示物（水性サインペン） 合理①-2-1 } ①～③は黒板に掲示  
 ③ タイマー  
 ④ 絵の具  
 ⑤ 水性サインペン  
 ⑥ 紙コップ  
 ⑦ ペットボトル（水） } ④～⑦は生徒が制作する場面で使用

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教員の指導・支援と評価 (◎評価)
10	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">あさがおのタペストリを作ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を板書し、前に行った絵の具を用いた彩色の仕方を、掲示物で確認する。（前時の活動が思い出しやすい発問）</li> <li>絵の具での彩色以外に、今回は水性サインペンを使ったペーパークロマトグラフィーの技法できるように写真を掲示する。合理 ①-2-1</li> </ul>
30	2 創作活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>やりやすい方を選び、作品を作る</li> <li>目標10枚作る</li> </ul> ◇絵の具  ◇水性サインペン 合理①-2-1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>彩色の苦手意識をなくすため、水性サインペンでの彩色を体験していただくことを勧める。水性サインペンを使った作品を提示し、他の方法があることに気付くように発問する。（やりやすさの違いに気付かせる発問）</li> <li>作業に集中できるように、言葉かけは控えて見守る。</li> <li>Fは飽きてくるとGに話しかけたり、独り言を言ったりするので、作業が進まない時は机の向きを変えて個別指導する。合理 ①-2-3</li> <li>表情や活動の様子を観察し、意欲が高まっているときは、大いに賞賛する。</li> <li>Fは、失敗するとパニックを起こすことが考えられるため、段階的に作業を進めるよう助言する。活動一つ一つに具体的な賞賛を入れ安心感を与える。合理①-2-3            （どこを注意して行ったのか本人が自分の言葉で伝えられるよう発問から引き出す）</li> <li>彩色が失敗した作品でも、丸めてつぼみのように形作ることができるので、「安心して制作しよう」と言葉かけをする。合理①-2-3</li> <li>教員がわざと失敗を示し、失敗作でつぼみを作ってみせる。合理①-1-1</li> <li>お互いを気遣うような発言をした時には、その気持ちをくみ取り、感謝の気持ちを伝える。お互いに言い合いになってしまった時は、作業を中断し、気持ちが落ち着くようにFにはタオルをかぶることも許可する。合理①-2-3</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           ◎ F：水性サインペンを使うと彩色することが簡単であることに気付き水性サインペンを選びで彩色することができたか。            （観察・発表）         </div>

10	3	片付けをする。	<p>◎G：自分から「～が難しい」と伝え、教員からのヒントを手掛かりに、できる方法を見いだすことができたか。 (観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守りつつ、片付けが不十分な場合は助言する。</li> </ul>
	4	学習のまとめをする。 ・自分と友達があんばったことを発表する。 ・次時の活動を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信につながるような言葉かけをして大いに賞賛する。</li> <li>お互いのがんばりに気がついたことを賞賛する。</li> <li>がんばったことに気づきにくいときには、手順表やできた作品を指で指して、具体的に何について発表するのかヒントを出して発表しやすくする。</li> <li>次時の活動を説明する。うちわの形を見せて次時の活動のイメージをもたせる。完成間近に気付かせ、興味を持続を図る。 (次時の活動イメージを発表させる)</li> </ul>

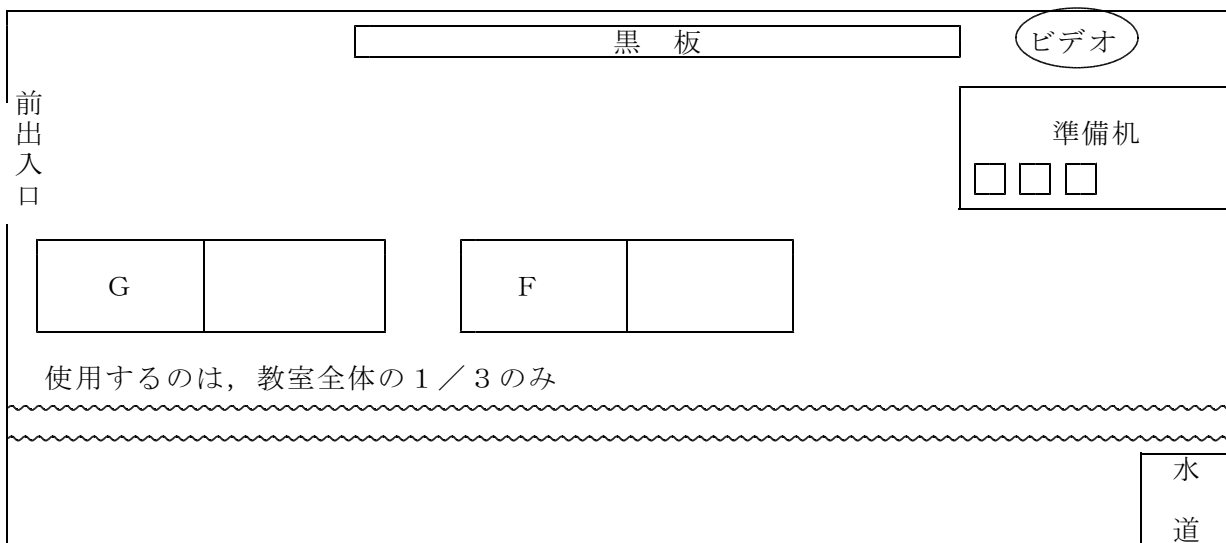
(4) 板書，提示計画

合理 ①-2-2



(5) 場の設定 美術室（座席配置図，環境図等）

合理 ①-1-2





# 学習指導案 ⑦

〈対象とした生徒〉	2年 性別 男 H
〈個別の指導計画から〉	
○短期目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事を表した文章の内容を理解することができる。</li> <li>・短い文章を正しく書くことができる。</li> </ul>	
○手立て	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤外線補聴システムを活用する。</li> </ul>	合理①-1-1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の読み方は指文字を使って正確に表すことができるように促し、筆順は空書きをすることで、間違いがないかを確認することができるようにする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。</li> </ul>	合理①-2-1

## 特別支援学校〈聾学校〉 高等部 国語科学習指導案

### 1 単元名 文化を見つめる

### 2 単元について

#### (1) 対象生徒の国語科における実態

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
生徒の実態	相手と話題を共有したいという気持ちが強いが、意思の疎通がうまくいかないと分かったふりをするところがある。自分から進んで本を読んだり、文章を書いたりすることが難しい。	友達と手話や指文字でコミュニケーションをとることに困らない。適切な文章を考え、口話で誰にでもわかるように話したり、説明したりすることは難しい。口話のみの理解は難しく、手話等の補助手段が必要である。	体験したことや、簡単な感想は書くことができるが、自分の考えをまとめたり深めたりして、まとまった文章を書くことは難しい。相手や目的に応じて適切な表現を考えることは難しい。	語彙が少なく意味の分からない語句は漢字から意味を類推しようとする。書かれていないこと（人物の心情や作者の意図など）を考えたり推論したりするのは苦手で、具体例や補足説明を必要とする。	助詞・助動詞の欠落や誤使用、動詞・形容詞の誤活用が多い。音韻がいまいなため、表記の際に文字が抜けることがある。漢字の書き順が定まらず一画欠けたりする。慣用句の知識に乏しい。

#### (2) 単元観

教材「進化の隣人サル」の文化行動はサルの行動を通して、人間が進展させてきた文化や文明のあり方を考える内容である。普段から身近で便利に使っている科学技術だが、人間の生活にどのような影響を与えるかまで深く考えることのない生徒にとって、人間の文化を振り返る時、サルとの比較は分かりやすく興味をひく教材といえる。また社会を取り巻く様々な事象に対して、受け身であり疑問を持たない生徒に、問題意識を持って情報を得たり考えたりする力や態度を身につけるのに適した教材である。卒業後は一般企業で就労を目指す本生徒にとって主体的に情報を収集し、社会への興味関心の幅を広げることが、職業人として必要な態度であり、また、より充実した社会生活を送るためにも欠かせない習慣と考える。そのような態度や習慣を養う契機として、本教材は適していると考えられる。

#### (3) 指導にあたって

生徒Hは書き言葉で使われる語句の理解に乏しく内容の読み取りに時間がかかるため、取扱時数を通常より増やした。そして、自身の経験に結びつけて語句の意味を説明するようにし、いつでも振り返りができるように既習内容を表示することで、内容の理解を助けるようにする。また、生徒が考えを述べる際に適切な言葉が浮かばず答えに窮することが予想されるため、あらかじめ選択肢を用意するなどして、生徒が持てる力で主体的に活動できるような支援をする。

### 3 生徒の実態と個別目標

〈単元における実態〉

- 生活や学習でよく使う語句でも、正しく表記したり、適切な文章を書いたりすることが難しい。
- 主述の関係に注意しながら、文章の大まかな内容を読み取ることが難しい。

〈単元における目標〉 (当該学年の目標 当該学年の目標を一部変更・下学年教材) 合理①-1-2

対象生徒の指導における単元目標	通常の学級における単元目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材を通して、文化についての見方や考え方を広げようとしている。</li> <li>○中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読むことができる。</li> <li>○表現したり、理解したりするために必要な語句を増やすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常で体験している文化について、あらためて興味・関心を抱かせる。</li> <li>○文章の構成や内容を大まかに読み取る習慣を身に付けさせ、評論文を読解する力を養う。</li> </ul>

### 4 指導計画と評価（8時間扱い）

- 第1次 説明文を読もう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第2次 内容を読み取ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間
- 第3次 短文を作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

次	変更後の単元計画 (8時間扱い)	通常学級で実施する際の単元計画 (4時間扱い)
1	1 学習の見通しをもつ	1 学習の見通しをもつ
2	2・3 語句の意味を確認しながら全文を音読し、本文を5つの意味段落に分ける。	2 全文を音読し、幸島のサル イモ洗い 行動に対する筆者たちの考えを把握する。 3 文化の定義から幸島のサル の行為を見直し、サル社会にも食文化があることを読み取る。 4 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解し、文化と文明の進展とそのあり方を考える。
	4 幸島のサル イモ洗い 行動に対する筆者たちの考えを把握する。	
	5 文化の定義から幸島のサル の行為を見直しサル社会にも食文化があることを読み取る。(本時)	
	6 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解する。	
	7 人間の文化と文明の進展を理解した上で、文化のあり方を考える。	
3	8 本文中の語句を使って短文を作る。	

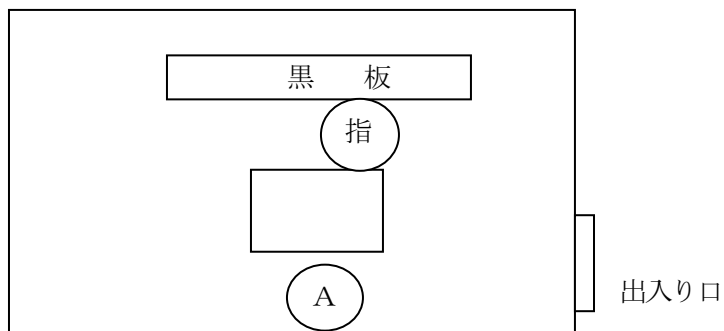
### 5 本時の指導

(1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助詞の抜けや誤用があり、正しい音韻で表現することが難しい。</li> <li>○文章を読んで一つ一つの語句の意味を考えることはできるが、叙述に即して内容を正しく理解することは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい音韻を意識し、音読をしたり、意見を発言したりすることができる。</li> <li>○文章中の語句の意味を正しく理解することで、内容を理解することができる。</li> </ul>

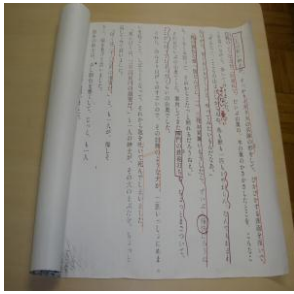
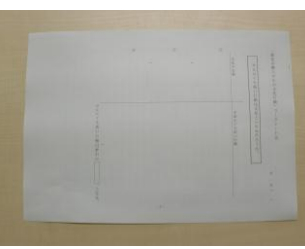

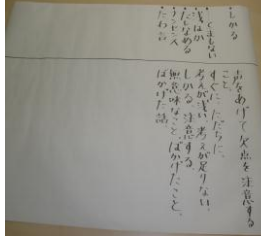


(5) 座席図 (配置図)



(6) 教材・教具の工夫について

合理①-2-1

拡大した本文	ワークシート	短冊黑板	語句の確認表
			
<p>中心となる文章や注目させたい箇所等に、傍線を引いたり、補足説明を書き込んだりすることで視覚的に確認できるようにする。</p>	<p>キーワードや中心となる文章を書き込めるものを作成することで、内容を整理して理解することができるようにする。</p>	<p>問いに対する答えを、選択肢があることで、その中から選ぶことができるようにする。自分の考えや適切な言葉が見つからない時に、活用することで、答えることができるようにする。</p>	<p>授業中に意味を説明した語句を順次書き加えていくことで、必要な時に見て確認できるようにする。</p>

# 学習指導案 ⑧

＜対象とした生徒＞	1年 性別 男 J
＜個別の指導計画から＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短期目標           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の呼びかけに従って対象物へ移動し、指定された動きを行うことができる。【5-(4), (5)】</li> <li>・複数の教員や友達と活動に参加することができる。【3-(1)】</li> </ul> </li> <li>○ 手立て           <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助具〔正面から机スロープ〕を活用する。合理①-1-1</li> <li>・「せえの」等の声による転がすきっかけを与える。転がす前にボールによく触れさせる。できた時は大きく賞賛する。合理①-2-1</li> <li>・円になり教員が曲に合わせて右回りに動くことで生徒全員を支援する。合理①-1-2</li> </ul> </li> </ul>

## 特別支援学校（肢体不自由）高等部 自立活動学習指導案

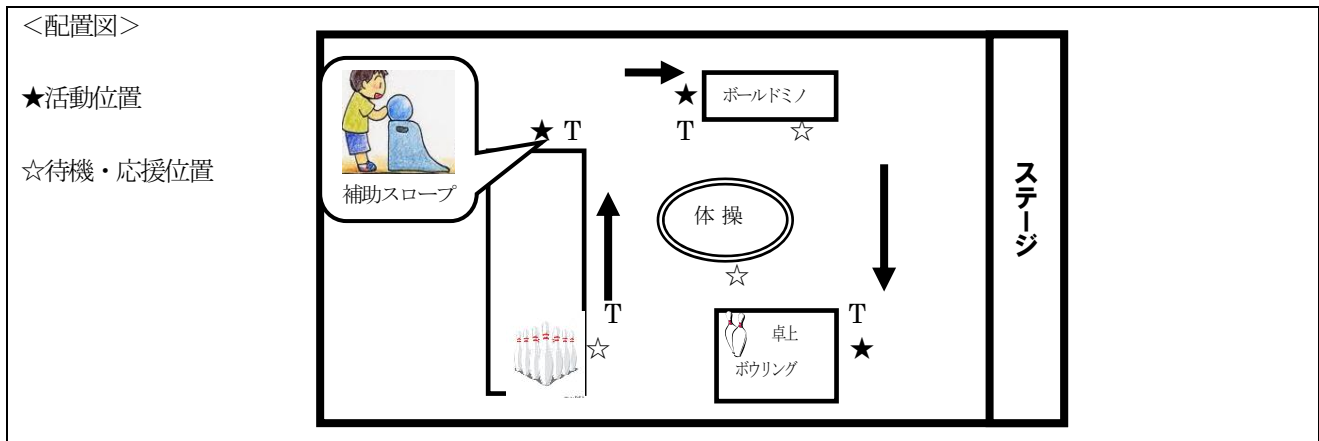
日時	平成〇年〇月〇日 (〇)	高等部 III課程	場所	体育館				
	〇:〇~〇:〇	〇〇グループ	人数	生徒6人				
指導者	T1 T2 T3 T4 T5							
題材名	「たおして遊ぼう」	教科・領域	自立活動（運動）					
題材設定の理由	<p>本グループは、男子4名、女子3名、計7名で構成されている。身体の動きの実態としては、待つことが苦手な生徒、筋緊張をうまくコントロールできない生徒、受け身の姿勢中心の生徒と大きく3つに分けられる。個別の指導計画においては、グループ全体として「主体的な動き」を大きな目標としている。今年度の「自立活動（運動）」では、サーキット運動を中心に「押す、引く、つかむ、はなす、投げる」動きに取り組んできた。10月には運動会及び特体連体育大会が行われ、手指を主とした運動習慣が身に付きつつある。自分から興味のあるものに働きかける経験が乏しい生徒の「主体的な動き」を引き出すためには、「自分でできる動き」を効果的に授業内容に取り入れ、「できた!」という達成感を味わわせることが必要であろう。そこで本題材では、サーキット運動において最も主体的な動きが見られた「押す」動きに着目し、「物を倒す」活動を取り上げた。「押して倒す→壊れる」という活動は小さな力でも大きな変化を引き起こすことができるため因果関係が分かり易い。弱視という障害があっても、倒れる音で結果を知ることができる。</p> <p>12月には部行事としての球技大会が予定されている。本グループの生徒は、ボウリング種目への参加となる。ボウリングの特徴として「ボールを転がしてから変化が起こるまでの時間差の存在」がある。段階的に「ボールを転がしてピンを倒す」という因果関係へ広げていくために、手で直接倒す活動から物を用いて倒す活動へ発展させる題材構成とした。また、ボールからピンまでの距離を少しずつ延ばしながら学習できる教材環境を整えた。各生徒が自分でできる方法で繰り返し練習を重ねることで、「物を倒す競技」の代表であるボウリングへの興味・関心と意欲の向上及び、主体的なボウリング競技への参加へつなげていきたいと考え本題材を設定した。</p>							
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に活動に取り組むことができる。「関心・意欲・態度」</li> <li>・手や物を用いて教材を倒すことができる。「技能」</li> </ul>							
キャリア教育の視点から育てたい力に〇印	人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力	
	自己理解	意思の表出	情報活用	金銭の扱い	習慣形成	生きがい	目標設定	振り返り
	集団参加	挨拶・身だしなみ	社会の規則	役割の理解	夢や希望	やりがい	選択	

1 指導計画と改善点 (14 時間扱い)

	学習内容	時数		改善点
第一 次	手を使って倒してみよう (缶, 段ボール, ドミノ, ボウリングピン)	4	⇒ ⇐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MVP 選出の基準が, 「絶対評価」なのか「相対評価」なのか曖昧であった。検定カードを活用した共通理解を試みる。</li> <li>・ 教材のある 4 つの各場所にて評価場面をより詳細に設定する。Ex: 赤色の缶を触って倒す。○本のピンを倒す。教員の指示に従い, 右手と左手を使い分けて倒す。</li> </ul>
第二 次	物を使って倒してみよう (棒, ボール)	4	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボールでドミノを倒す補助具が, 最も力の弱い生徒に対応できなかった。より軽い力でドミノを倒せるように調整を行う。合理①-1-2</li> </ul>
第三 次	ボウリングをしよう  ※本時は 4/6	6	⇐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローテーションの回転の効率化による活動時間の確保を考え, ペアの組み合わせを変更する。合理①-1-2</li> <li>・ 学習意欲のさらなる向上を促すため, ボウリングマスターに模範演技を促し, 全体で大きく賞賛する。</li> </ul>

2 本時の指導

授業観察の視点	児童生徒理解		障害特性に応じた指導	指導技術	
	T・T	○	教材・教具	○	題材構成
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら教材を見たり, 音を聞いたりしながら活動することができる。「関心・意欲・態度」</li> <li>・ 身体の動きやすい部分を用いてボールを転がし, 教材を倒すことができる。「技能」</li> </ul>				
時間	学習内容・活動	評	教員の指導・支援 (T1, T2 以下の動きなど)		準備・資料
5	1 始めのあいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水分摂取は体育館にて実施。早く移動できた生徒は車いすや独歩支援によるウォーキングで身体を動かすように助言する。</li> <li>・ 準備中は BGM を流し, 授業開始への期待感を高める。</li> </ul>		スマートフォン マイク
5	2 準備体操をする。 「からだげんきかな」	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 の合図に合わせて各教員が円の内側を周り, 生徒全員が 5 人の教員と触れあえるようにする。また教員が介助に入らない場面を設定することで自分で準備体操に向き合う時間を作る。</li> </ul>		
30	3 本時の学習内容を知る。  <b>めざせ！ボウリングマスター！</b>  (1) ボールドミノ 担当:T2  (2) 卓上ボウリング 担当:T3  (3) スロープボウリング 担当:T4, T5  ・ BGM が流れているときに「倒す学習」を行う。	② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までに何を使って「たおす活動」を行ってきたのかを実物で確認後, 本日使う「ボール」に触れさせる。各 T は以下の支援。「手」→タッピング, 「バットやボール」→触れさせる。</li> <li>・ 本日に一緒に活動するペアを発表する。(各 T は検定カードのリボンの色で判別) (1) から M と N, (2) から J と P, (3) から K と L</li> <li>・ T2~T5 は各ペアとともに持ち場へ移動する。各場所で生徒活動支援から次の場への移動までを確実に進行。生徒に応じて姿勢を工夫する。曲の停止を合図としてペア内で交替し, 次の曲停止で一斉にペアのまま次のコーナーへ移る。ペアの 1 名は最も倒れる音の聞こえる配置図☆の位置へ移動させ, 応援待機を促す。常時 T1 は応援待機者を見守り, 一緒に応援する。</li> <li>・ 各 T は生徒が持つ検定カードを確認し, 目標に沿った支援及び評価を行う。シールでの評価を生徒に語りかけながら行う。 合理①-2-1</li> <li>・ T2 は長机上のドミノの設置及び生徒の導き, 検定カードの評価を行う。</li> <li>・ T3 はボウリングのピンと補助具の設置及び生徒の導き, 検定カードの評価を行う。</li> <li>・ T4 はピンとボールの準備及び応援の促しを行う。</li> <li>・ T5 はボールの設置及び生徒の導き, 検定カードの評価を行う。</li> </ul>		ボウリングマスター 検定カード プラスチックバット
5	4 本日の BM 発表 (実技発表) <u>ボウリングマスター</u>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 が検定カードを集め, T2, T3, T5 が各コーナーでのトピックスを発表する。各コーナーでの評価を基準に BM を決める。BM ペアに帽子を贈呈し, 代表 1 名に模範演技を促す。ピンが倒れた後, 全体で大きく賞賛する。合理①-2-3</li> </ul>		
5	5 次回の授業内容を知る。 6 終わりのあいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 が次週の内容を伝えることで, 活動への意欲を高める。</li> </ul>		補助スロープ (2種) ブロックマット カーペット  帽子2個







### 3 生徒の個別目標と実態及び手立て

氏名	目標	目標に関連する実態	手立て	評価場面 [評価方法]
J (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「せえの」の合図に合わせてボールを転がすことができる。</li> <li>5人の教員と順番に体操を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の過敏や弱視により環境の変化をつかみにくい。初めての活動に対して不安を持ちやすい。褒められることを好む。</li> <li>個別活動を好み、集団活動への拒否がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>「せえの」等の声による転がすきっかけを与える。転がす前にボールによく触れさせる。できた時は大きく賞賛する。</li> <li>多くの教員と一緒に体操ができるように、円になり教員が曲に合わせて右回りに動くことで生徒全員を支援する。合理①-1-2</li> </ul>	①②③④⑤ [検定カード・行動観察]
K (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「せえの」の合図まで待ってボールを転がし、ドミノやピンを倒すことができる。</li> <li>活動の中で、チームの友達を意識して応援することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱視であり、音や声、対象物の色などで周囲を判断している。</li> <li>特定の女子生徒の名前を呼んで応援することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>合図まで待てた時に賞賛する。</li> <li>左手のみで活動できるように、車いすの位置に配慮する。合理①-1-1</li> <li>応援すべき友達の名前を伝える。</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
L (2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを注視し、自らボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるものは注視し、手を伸ばすことができる。昼夜が逆転し眠っていることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【横から白スロープ】</li> <li>転がす前にボールによく触れさせる。肘を支え、手首から上の主体的な動きを待つ。合理①-1-1</li> <li>視線を確認しながら、教員と一緒に両手を伸ばし、ボールが転がる様子を見届けられるようにする。</li> <li>できた時は大きく賞賛し、共に喜ぶ。</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
M (2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>紐を引く補助具を用いて自らボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋緊張をうまくコントロールできず、全身が硬直することがある。体調が良い時は、両手両足を使い、様々な物に働きかけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>筋緊張が強い場合は、マットに降りて見守り回復を待つ。左側に目標物がくるように車いすを配置し主体的な動きを待つ。合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
N (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを両手でたたき、転がすことができる。</li> <li>ボールを注視することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの物に興味を示さないが車いすに乗り目の前に教材を提示すると手が伸びる場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【立位：横から机スロープ】</li> <li>視線を確認しながら、教員と一緒に両手を伸ばし、ボールが転がる様子を見届けられるようにする。 合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
P (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の呼びかけに従ってボールを押し、転がるボールを目で追うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行ったことのある活動に対してはゆっくりと手を使い、自ら動くことができる。叩く動きが得意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【立位：正面から机スロープ】</li> <li>視線を確認しながら呼びかけによる支援を行う。叩く動きでボールを動かせるように、この補助具を利用する。合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]





4 教材・教具の工夫について

ボールドミノ専用の補助具	卓上ボウリング専用の補助具	スロープボウリング専用の補助具	ボウリングマスター検定カード
			
<ul style="list-style-type: none"> <li>最初のドミノに触れる位置でボールが止まるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹ひご1本の段差があり、直線的にボールが転がるので、的に当てやすい。生徒の力によって、傾斜を調節できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋緊張等により押し出す動きが困難な場合のために、引くことでボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒の本時の目標を生徒に分かる言葉で記入する。バインダーにはさみ、各生徒が活動場所に持参する。</li> <li>各活動場所の担当の教員が確認・評価する。</li> </ul>